

平成 2 5 年 第 9 回鞍手町議会定例会会期日程

1 会 期 1 2 月 4 日（水）から 1 8 日（水）まで 1 5 日間

2 日 程 下表のとおり

月 日	曜 日	会 議 名	開議時刻	摘 要
1 2 月 4 日	水	本 会 議	1 3 時	開会・議案上程
5 日	木			
6 日	金			
7 日	土			
8 日	日			
9 日	月	本 会 議	1 3 時	一 般 質 問
1 0 日	火	本 会 議	1 3 時	一 般 質 問
1 1 日	水	本 会 議	1 3 時	議 案 質 疑
1 2 日	木	民生産業委員会	1 0 時	付託事件審査
1 3 日	金	総務文教委員会	1 0 時	付託事件審査
1 4 日	土			
1 5 日	日			
1 6 日	月	予 備 日		
1 7 日	火	予 備 日		
1 8 日	水	本 会 議	1 3 時	審査報告・閉会

平成25年鞍手町議会第9回定例会会議録（第1号）						
	平成25年 12月 4日					
招集場所	鞍手町役場議事堂					
開閉会日時 及び宣告	開 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月 4日 午後1時00分				川野高實	
	閉 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月 4日 午後1時26分				川野高實	
出席及び 欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠 の別	議席 番号	氏 名	出欠 の別
	1	熊井照明	出 欠	11	宇田川 亮	出 欠
	2	須山 由紀生	出 欠	12	岡崎 邦博	出 欠
	3	星 正彦	出 欠	13	栗田 幸則	出 欠
	4	一	出 欠			
	5	田中 二三輝	出 欠			
	6	原 哲也	出 欠			
	7	川野高實	出 欠			
	8	須藤 敏夫	出 欠			
	9	久保田正之	出 欠			
出席 12人 欠席 0人 欠員 1人	10	武谷 保正	出 欠			
会議録署名 議員	5	田中 二三輝		6	原 哲也	

職 出	務 席	議 会 事 務 局 長	渡 辺 智 文	出 矢	議 会 事 務 局 長 補 佐	武 谷 朋 視	出 矢
地 方 自 治 法 第 1 2 1 条 に よ り 説 明 出 席 者 の 職 氏 名	町 長	徳 島 眞 次	出 矢	会 計 課 長	久 保 田 隆 一	出 矢	
	副 町 長	本 松 吉 憲	出 矢	建 設 課 長	森 茂 樹	出 矢	
	教 育 長	水 摩 幸 隆	出 矢	企 画 財 政 課 長	三 戸 公 則	出 矢	
	総 務 課 長	白 石 秀 美	出 矢	上 下 水 道 課 長	原 敏 勝	出 矢	
	福 祉 人 権 課 長	鯉 坂 健 二	出 矢	教 育 課 長	筒 井 英 和	出 矢	
	税 務 住 民 課 長	藤 原 光 徳	出 矢	保 険 健 康 課 長	長 友 浩 一	出 矢	
	農 政 環 境 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	篠 原 哲 哉	出 矢				
議 事 日 程		別 紙 の と お り					
付 議 事 件		別 紙 の と お り					
会 議 経 過		別 紙 の と お り					

平成25年第9回鞍手町議会定例会議事日程

12月4日 午後1時開議

第1号

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 人権擁護委員候補者の推薦に関する協議
- 日程第4 議案第87号 鞍手町督促手数料及び延滞金徴収条例
- 日程第5 議案第88号 鞍手町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第6 議案第89号 鞍手都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第7 議案第90号 鞍手町営住宅管理条例の一部を改正する条例
- 日程第8 議案第91号 社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律並びに社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例
- 日程第9 議案第92号 鞍手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第10 議案第93号 鞍手町課室設置条例等の一部を改正する条例
- 日程第11 議案第94号 平成25年度鞍手町一般会計補正予算（第5号）
- 日程第12 議案第95号 平成25年度鞍手町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第13 議案第96号 平成25年度鞍手町流域関連公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第14 議案第97号 平成25年度鞍手町かんがい施設維持管理運営費特別会計補正予算（第1号）
- 日程第15 議案第98号 平成25年度鞍手町泉水団地改良住宅移設事業特別会計補正予算（第2号）
- 日程第16 議案第99号 平成25年度地方独立行政法人くらて病院貸付金特別会計補正予算（第1号）
- 日程第17 議案第100号 平成25年度鞍手町水道事業会計補正予算（第2号）

平成 25 年 12 月 4 日（第 1 日）

開議 13 時 00 分

○議長 川野 高實君

只今から、平成 25 年第 9 回鞍手町議会定例会を開会します。

町長より行政報告の申し出がありますので、これを許可します。

町長。

○町長 徳島 眞次君

12 月定例会開会に先立ち、2 件について行政報告を行います。

まず初めに、福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地球場誘致について、行政報告いたします。

当該ファーム本拠地球場の誘致につきましては、本年 8 月 2 日に福岡ソフトバンクホークス株式会社より県内を主とした地方自治体を対象に募集が行われ、本町をはじめ 5 県から、34 自治体が応募いたしました。

本町といたしましては、誘致の実現により、地域活性化や町のイメージ向上、定住人口・流入人口の増加、青少年健全育成、経済的効果などが十分期待できるものと判断し、鞍手インターチェンジ北側用地約 12.6 ヘクタールを候補地として選定いたしました。

また、当該用地の約 9 割が民有地であることから、誘致を前提に土地の所有権移転について 35 名すべての地権者から同意を取り付けた上で、9 月定例会において提案書の作成及びプレゼンテーション等に必要な予算として 315 万円を計上し、議決いただいたところです。

提案書については、9 月 13 日に私が自ら上京し、提出先である、みずほ信託銀行において、誘致にかかる熱い思いを伝えてまいりました。また、町内多数の企業、団体、事業所の皆様からも格別なご支援、ご協力をいただき、大変心強く感じるとともに、誘致成功への期待が日増しに膨らんでまいりました。

しかしながら、9 月 26 日に第 1 次選考の通知があり、鞍手町は通過には至りませんでした。私を含め、多くの町民の皆様が誘致成功に大きな期待を寄せておりただけに、今回の結果については、誠に残念な思いでいっぱいであります。現在、選考は 2 次の段階に入っており、宮若市をはじめ、福岡市、北九州市、筑後市の 4 自治体で候補地の最終調整が行われております。

今回の応募については、お手元にお配りしております 1 次提案書の作成等経費として、178 万 5 千円を支出しております。当該用地については、現在も民間企業による開発計画が進行しており、今回の提案書の作成に使用しました資料等につきましては、今後の当該用地の開発に活かしていきたいと考えております。

以上が、福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地球場誘致についての行政報告であります。

次に、日本自治体等連合シンガポール事務所開所及び特産品展示会について、行政報告いたします。

先の9月定例会におきまして、シンガポールに（仮称）日本国地方政府連絡協議会シンガポール事務所開設に伴う関係補正予算を議決いただきました。

10月25日に、佐賀県武雄市、富山県南砺市、沖縄県石垣市、香川県宇多津町、福岡県より大刀洗町、鞍手町及び新潟県より燕市、三条市が出資している一般財団法人燕三条地場産業振興センターの3市3町1団体の加盟により、現地シンガポールにおきまして設立総会及び事務所開所式が行われました。

最終的に正式名称は、日本自治体等連合シンガポール事務所運営協議会として発足し、会長には樋渡啓祐武雄市長が互選され、就任されております。

総会終了後、シンガポール日本大使館の安藤俊英公使をはじめ、多くの要人参列のもと盛大に開所式が執り行われました。

また、その日の午後から引き続いて、約30名の現地バイヤーなどを迎え、特産品の展示会を開催いたしました。

本町からも8品、10点の特産品を展示し、販路拡大に努めて参っております。

出展品及び展示会等の状況につきましては、お手元に配布させていただいております資料をご参照いただきたいと思います。

なお、今回の展示会の成果につきましては、町内の障害者授産施設ゆたかの里で製造販売していますクッキーが、ポーランドのマンデー（MandY）社の関心を引き、ポーランド国内の販売に向け検討するとして現地で行われます見本市出品のためサンプル商品の注文・購入をしていただいたところであります。

本格的な取引となるためには、賞味期限の延長や生産量の拡大などクリアしなければならない課題もありますが、町といたしましても本格的な取引に繋がっていくよう支援して参ります。

また今回、出展した商品で商談に至らなかったものや、今回の展示会に出展出来なかったもので海外に売り出していこうとするものについては、引き続き売り込みを行っていきたいと考えております。

以上が、日本自治体等連合シンガポール事務所開所及び特産品展示会についての行政報告であります。

以上2件について行政報告を終わります。

○議長 川野 高實君

以上で行政報告を終わります。

まず、町長より提出されております工事請負契約状況報告書と、監査より提出されております、例月現金出納検査報告書をお手元に配布していますのでご確認下さい。

次に、本日まで受理しました請願1件は、お手元に配布しています請願文書表のとおり、所管の常任委員会に付託しますので報告しておきます。

これより日程に入ります。

日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第124条の規定により、議長において5番議員 田中二三輝君及び6番議員 原哲也君を指名します。

次に、日程第2 会期の決定を議題とします。

今期定例会の会期は、本日から12月18日までの15日間としたいと思います。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって会期は、本日から12月18日までの15日間に決定しました。

次に進みます。

日程第3 人権擁護委員候補者の推薦に関する協議を議題とします。

別紙のとおり、議会の意見を求められています。

これから質疑を行います。

人権擁護委員候補者の推薦に関する協議について、質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。

人権擁護委員候補者の推薦に関する協議については、会議規則第38条第3項の規定により、委員会付託を省略したいと思います。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって人権擁護委員候補者の推薦に関する協議については、委員会付託を省略することに決定しました。

これから討論を行います。

人権擁護委員候補者の推薦に関する協議について、討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから採決を行います。

人権擁護委員候補者の推薦に関する協議について、原案を適当と認め、原案どおり決定し通知することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって原案を適当と認めることに決定しました。

次に進みます。

日程第4 議案第87号から日程第7 議案第90号までの4件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長 徳島 眞次君

日程第４ 議案第８７号から日程第７ 議案第９０号までの４件について、一括して提案説明を申し上げます。

日程第４ 議案第８７号は、鞍手町督促手数料及び延滞金徴収条例であります。

本条例は、地方自治法の規定に基づく税外収入金に係る督促手数料及び延滞金の徴収に関し、必要な事項を定めるため制定するものであります。

次に、日程第５ 議案第８８号は、鞍手町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例であります。

本条例は、地方税法の一部改正により延滞金の割合が引き下げられたことに伴い、関係条文を整備するものであります。

次に、日程第６ 議案第８９号は、鞍手都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例であります。

本条例は、地方自治法に基づく延滞金の割合を都市計画法に基づく割合に改正し、督促及び督促手数料については、督促手数料及び延滞金徴収条例の規定を適用することに伴い、関係条文を整備するものであります。

次に、日程第７ 議案第９０号は、鞍手町営住宅管理条例の一部を改正する条例であります。

本条例は、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の題名を改正すること及び町営住宅家賃に係る延滞金の徴収に関する規定を削除することに伴い、関係条文を整備するものであります。

以上が、日程第４ 議案第８７号から 日程第７ 議案第９０号までの４件についての提案説明であります。

ご審議の上、ご協賛のほどよろしくお願いいたします。

○議長 川野 高實君

本案に対する質疑は、後日行います。

次に、日程第８ 議案第９１号及び日程第９ 議案第９２号の２件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長 徳島 眞次君

日程第８ 議案第９１号から、日程第９ 議案第９２号までの２件について、一括して提案説明を申し上げます。

日程第８ 議案第９１号は、社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律並びに社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例であります。

また、日程第９ 議案第９２号は、鞍手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改

正する条例であります。

この二つの条例は、社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うため、消費税法等並びに地方税法及び地方交付税法の一部改正に伴い、関係条文を整備するものであります。

以上が、日程第 8 議案第 9 1 号から日程第 9 議案第 9 2 号までの 2 件の提案説明であります。

ご審議の上、ご協賛のほどよろしくお願いいたします。

○議長 川野 高實君

本案に対する質疑は後日行います。

次に、日程第 10 議案第 9 3 号を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長 徳島 眞次君

日程第 10 議案第 9 3 号について、提案説明を申し上げます。

日程第 10 議案第 9 3 号は、鞍手町課室設置条例等の一部を改正する条例であります。

本条例は、政策立案、総合調整機能を強化し、新たな政策課題に迅速・的確に対応するとともに、地域経済の活性化を図るための組織体制の整備を行うことに伴い、関係条文を整備するものであります。

この改正により、新たな鞍手町の組織体制は、企画財政課を廃止し、政策推進課と地域振興課を新設して、現在の 10 課 1 局を 11 課 1 局とするものであります。

以上が、日程第 10 議案第 9 3 号の提案説明であります。

ご審議の上、ご協賛のほどよろしくお願いいたします。

○議長 川野 高實君

本案に対する質疑は後日行います。

次に、日程第 11 議案第 9 4 号から 日程第 17 議案第 100 号までの 7 件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長 徳島 眞次君

日程第 11 議案第 9 4 号から 日程第 17 議案第 100 号までの 7 件について、一括して提案説明を申し上げます。

日程第 11 議案第 9 4 号は、平成 25 年度鞍手町一般会計補正予算第 5 号であります。

本補正予算は、歳入では県道新延植木線整備に伴う土地売却収入や緊急雇用創出事業臨時特例基金事業補助金の追加配分を追加補正する一方で、過疎対策事業債の要望額が国の財源枠を超えることとなり一部減額するなどの補正を行っております。

歳出では、依願退職に伴う退職手当の追加や地方独立行政法人くらて病院の運営費負担金

の後期分などの追加補正を行う一方、過疎対策事業債の減額に伴い道路整備事業や総合福祉センターの給湯システム改修事業費などを減額補正しています。

また、新中学校の屋上に整備する自家消費用の太陽光発電設備以外に屋上の空きスペースを活用し、売電を目的とする太陽光発電事業を業務委託で行うための発電施設使用料及び発電事業業務委託料の債務負担行為を新たに補正計上しております。

これにより、歳入歳出それぞれ4,472万8千円を追加し、予算総額を、歳入歳出それぞれ81億103万8千円としております。

次に、日程第12 議案第95号は、平成25年度鞍手町国民健康保険事業特別会計補正予算第3号であります。

本補正予算は、医療機関へ支払う保険給付費、共同事業拠出金、諸支出金、国庫支出金などの補正要因を調整し、歳入歳出それぞれ3,685万3千円を追加して、予算総額を、歳入歳出それぞれ24億3,870万9千円としております。

次に、日程第13 議案第96号は、平成25年度鞍手町流域関連公共下水道事業特別会計補正予算第3号であります。

本補正予算は、国庫補助金の減額に伴い、委託料、工事請負費の減額などの補正要因を調整し、歳入歳出それぞれ3,498万8千円を減額して、予算総額を、歳入歳出それぞれ6億9,974万3千円としております。

次に、日程第14 議案第97号は、平成25年度鞍手町かんがい施設維持管理運営費特別会計補正予算第1号であります。

本補正予算は、かつて、鞍手町土地開発公社が所有していた宗春用地につきまして、県道新延植木線道路改良工事に必要な土地となったため、本町より福岡県に払い下げを行いました。

この宗春用地につきましては、公社用地から町有地にするため、平成18年度に鞍手町かんがい施設維持管理運営基金を取り崩して取得した経緯があります。

このことから、公社用地であった土地を売却して得た資金は、鞍手町かんがい施設維持管理運営基金に積み立てることとしていましたので、補正を行っております。

また、繰越金についても補正を行っており、歳入歳出それぞれ2,164万2千円を追加し、予算総額を、歳入歳出それぞれ5,032万6千円としております。

次に、日程第15 議案第98号は、平成25年度鞍手町泉水団地改良住宅移設事業特別会計補正予算第2号であります。

本補正予算は、施工中の敷地造成工事においてコンクリート製品の需要に生産が間に合わない状況にあり、その入荷の遅れにより造成工事が3月末までかかることから、当初本年度で計画していた建築工事を来年度に変更することにより、減額補正を行っており、歳入歳出それぞれ3億936万2千円を減額し、予算総額を、歳入歳出それぞれ8億178万3千円としております。

次に、日程第16 議案第99号は、平成25年度地方独立行政法人くらて病院貸付金特

別会計補正予算第1号であります。

本補正予算は、歳入では平成24年度分起債借入利率の確定に伴い、くらて病院からの公債費負担金が230万6千円減額となるほか、医療機器購入事業費などの確定に伴い充当財源となる町債を3,420万円減額しております。

また、歳出では、医療機器購入事業費などの確定に伴い貸付金3,420万円を減額するとともに、起債借入利率確定に伴い、公債費を230万6千円減額するものです。

これにより、歳入歳出それぞれ3,650万6千円を減額し、予算総額を、歳入歳出それぞれ3億6,625万5千円としております。

次に、日程第17 議案第100号は、平成25年度鞍手町水道事業会計補正予算第2号であります。

本補正予算は、浄水場の雨漏り対策等の必要経費の補正要因を調整し、予算3条の収益的収入及び支出について、補正を行うもので、収入予算は142万5千円を追加し、収入予算総額を3億1,375万8千円としております。

また、支出予算は769万3千円を追加し、支出予算総額を3億4,969万4千円としております。

以上が、日程第11 議案第94号から 日程第17 議案第100号までの7件の提案説明であります。

ご審議の上、ご協賛のほどよろしくお願いいたします。

○議長 川野 高實君

本案に対する質疑は後日行います。

この際、休会についてお諮りします。

明日5日から8日までの4日間を休会としたいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって明日5日から8日までの4日間を休会とすることに決定しました。

以上をもって、本日の日程は全部終了しました。

本日は、これをもって散会します。

散会 13時26分

平成25年鞍手町議会第9回定例会会議録（第2号）						
	平成25年 12月 9日					
招集場所	鞍手町役場議事堂					
開閉会日時 及び宣告	開 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月 9日 午後1時00分				川野高實	
	閉 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月 9日 午後2時18分				川野高實	
出席及び 欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠 の別	議席 番号	氏 名	出欠 の別
	1	熊井照明	出 欠	11	宇田川 亮	出 欠
	2	須山 由紀生	出 欠	12	岡崎 邦博	出 欠
	3	星 正彦	出 欠	13	栗田 幸則	出 欠
	4	一	出 欠			
	5	田中 二三輝	出 欠			
	6	原 哲也	出 欠			
	7	川野高實	出 欠			
	8	須藤 敏夫	出 欠			
	9	久保田正之	出 欠			
出席 12人 欠席 0人 欠員 1人	10	武谷 保正	出 欠			
会議録署名 議員	5	田中 二三輝		6	原 哲也	

職 出	務 席	議会事務 局長	渡 辺 智 文	出 欠	議会事務 局長補佐	武 谷 朋 視	出 欠
地方自治法 第121条 により説明 出席者の 職氏名		町 長	徳 島 眞 次	出 欠	会計課長	久 保 田 隆 一	出 欠
		副町長	本 松 吉 憲	出 欠	建設課長	森 茂 樹	出 欠
		教育長	水 摩 幸 隆	出 欠	企画財政 課 長	三 戸 公 則	出 欠
		総務課長	白 石 秀 美	出 欠	上下水道 課 長	原 敏 勝	出 欠
		福祉人権 課 長	鯨 坂 健 二	出 欠	教育課長	筒 井 英 和	出 欠
		税務住民 課 長	藤 原 光 徳	出 欠	保険健康 課 長	長 友 浩 一	出 欠
		農政環境課長 兼農業委員会 事務局 長	篠 原 哲 哉	出 欠	福祉人権課 福祉高齢者班 長	守 田 純 子	出 欠
議 事 日 程		別 紙 の と お り					
付 議 事 件		別 紙 の と お り					
会 議 経 過		別 紙 の と お り					

平成25年第9回鞍手町議会定例会議事日程

12月9日 午後1時開議

第2号

日程第1 一般質問

一般質問通告一覧表

平成25年第9回定例会

No. 1

質問者	質 問 事 項 及 び 質 問 要 旨	答弁指定者
11番 宇田川 亮	<p>1. 介護保険制度の改悪について</p> <p>(1) 要支援者は、介護保険から外され、地域支援事業として、市町村の裁量となっているが、町内の対象者と今後の対策は。</p> <p>(2) 利用料引き上げの対象者と内容は。</p> <p>(3) 特別養護老人ホーム等の介護施設での低所得者への影響は。</p> <p>(4) 町として、「介護保険見直し」について、どのように対応していくのか。</p> <p>2. 町民のごみ処理負担軽減について</p> <p>(1) 宮若市でゴミ袋料金引き下げの答申が出ているが、料金が引き下げられた場合、鞍手町もそれに合わせていくのか。</p> <p>(2) 現在、「くらしクリーンセンター」では、ゴミ搬入は業者しか認めていないが、一般町民も受け入れるべきでは。</p> <p>3. 防犯灯設置について</p> <p>(1) 新中学校開校に向けて、新たに通学路も設定されるが、防犯灯の整備は。また、町民がよく通行する場所にも防犯灯を設置すべきでは。</p>	町 長
5番 田中 二三輝	<p>1. 鞍手町総合計画の進捗と組織強化について</p> <p>(1) 鞍手町総合計画の進捗について</p> <p>ア. 「第4次鞍手町総合計画」のメインテーマは。</p> <p>イ. 「第4次鞍手町総合計画」の後期5ヵ年計画も3年を経過しようとしているが、進捗状況をどのように判断しているか。また、住民の実感が無いことについてどのように考えているのか。</p> <p>(2) 組織強化について</p> <p>ア. 行財政改革は「まちが元気に」が基本になると思うが、本当に元気になっているのか。</p> <p>イ. 組織を構成する人員ピラミッドは理想的なものとは言いがたく、計画的な採用と、今後の住民サービスの向上を図るために職員の増員が必要と思うが、どのように考えているのか。</p>	町 長
2番 須山 由紀生	<p>1. 八尋南ヶ丘不動面池の漏水について</p> <p>(1) 昨年からの住民要求についての進捗状況は。</p> <p>(2) 埋め立ての考えは。</p>	町 長

平成 25 年 12 月 9 日（第 2 日）

開議 13 時 00 分

○議長 川野 高實君

これから本日の会議を開きます。

日程はお手元に配布のとおりです。

これより日程に入ります。

日程第 1 一般質問を行います。

質問はお手元の通告一覧表の順序により行います。

最初に、11 番議員 宇田川亮君の質問を許可します。

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

通告に従いまして、3 点について質問します。

まず最初に介護保険の改悪についてです。

安倍政権は、消費税増税と一体で実行する社会保障制度改革のプログラム法案の骨子を決め、臨時国会での成立を目指し、その具体化を進めています。そのため厚労省は、この秋、介護保険制度の見直しの議論を急速に進めているところです。

厚労省の予定でいきますと、2015 年からの実施を目指し、来年の通常国会に介護保険法案が提出されることとなります。今回の見直しでは、要支援者 150 万人もの保険外しをはじめ、低所得者にまで照準をあて、給付削減と負担強化の大改悪を狙っています。

まず、要支援者の介護サービスの切り捨てについてお尋ねします。

介護保険認定段階で要支援 1 と 2 に認定されているのは全国で 154 万人います。その内約 100 万人が予防給付を受けています。この予防給付を段階的に廃止し、市町村が行う地域支援事業に移し、内容や料金設定等は市町村の裁量で決めるとなっています。町内の要支援認定の数と今後の対策についてまずお答え下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

まず、町内の対象者の数の方からお答え申し上げます。

要支援の認定者は、本年の 11 月現在で 349 名です。その内訳ですが、要支援 1 の認定者が 210 名と、要支援 2 の認定者が 139 名おられます。町の地域支援事業となるのは、訪問介護の利用が 124 名、通所介護の利用 90 名で、合計 214 人が利用なされております。

今後の対策ということではありますが、宇田川議員さんの大きな 1 番目の介護保険制度の改悪についてということで、これがまだ介護保険制度の改正については、現在、国の社会保障審議会の介護保険部会にて検討中でございます。

来年度の国会で成立がなされましたら、要綱なり、どのようにということが明確に分かる

のでありますが、今現在では宇田川議員さんから（１）（２）（３）番と質問が出ていますが、これについては現在、まだ法案の方がきちっと決まったような状況でありませんので、ちょっとお答えできないのが現状でございます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○１１番 宇田川 亮君

まだ議論の段階だからということですが、今でも内容は相当明らかになってきているのですね。国民会議で大体内容を示して、その取り纏めを厚労省が行っていると。それに向けて今度政権が法案にして出していくということですから、中身については、ほぼ重要な中身がたくさん入って来ているわけです。その中で先程町長が言われました、要支援者の認定を受けておられる方が３４９名町内におられて、その内の２１４名が予防給付を受けていると、この２１４名が全て予防給付が受けられなくなる。または受けたとしても市町村の裁量で、それをやるとか、また料金をどうするとかというのを勝手に決めて、全部市町村に押しつける、または市町村だけでなく介護事業者等に押しつけるということになってくるので、今こうなったらどうなるのかということも考えていかないといけないというふうに思います。

それと、既に介護予防日常生活支援総合事業というのがありますが、それを今実施しているのは、これも全て地域のボランティアとか自治体があるわけですが、全国的に実施しているのが１２年１１月時点で、全国で２７自治体で、１３年度になっても４４自治体しかありません。これは何故かという、そういった日常生活に必要な要支援者の方々が必要な、例えばごみ出しとか、ヘルパーさんを含めていろいろなことありますが、そういうものが全部介護保険ではなくなっていくということで、それではちょっと地域の要支援者が相当な打撃を受けるということで、まだ実施している自治体は少ないわけです。これを全国的に全て押しつけようというのが今回の改悪の内容なので、ここは是非、よく研究して頂いて、対策なり。例えばこの法律が通ってしまえば実施自治体が市町村になるわけで、料金設定等も全て考えていかないといけない。それで要支援者が守れるかといったら、そうでないと思います。そういう意味ではその辺をよく精査して、今から取り組んでいく、考えていく必要があると思いますが、その点についてお願いします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

貴重なご意見ありがとうございます。今、宇田川議員がおっしゃいましたように、地方に移管されるということは、当然我々地方自治体といたしましても負担率が上がってくるという懸念材料もございます。

それともう１点は、私が掲げております定住促進による人口増加等からも鑑みますと、やはりそういった懸念材料が大きく増えれば、当然鞍手町に住みにくくなるということになりますので、私の方向性とは相反する形になってまいります。

いま、宇田川議員がおっしゃいましたことは、当然鞍手町1町だけの問題ではないかと思っております。町村会を通じまして、これもまた政府、国の方に陳情なりも重ねてやって行かなければいけないのかなと思っております。この件に関しましては、宇田川議員は私よりも詳しいかと思しますので、どうかご指導の程よろしく願いいたしまして答弁に替えさせていただきます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

既に4番の今後の対応という形になってしまいましたが、一応中身について、ある程度重要な点だけ今回の質問項目に上げさせてもらっています。

次に利用者負担についてです。これまで制度開設以来利用料が1割に押さえられて来ましたが、この利用者負担が一定以上の所得がある高齢者は2割に引き上げるとしています。その町内の対象者と引き上げの内容についてお答え下さい。

○議長 川野 高實君

福祉人権課長。

○福祉人権課長 鯨坂 健二君

25年度の市町村の段階別の被保険者数でよろしいでしょうか。それでしたら、すみません今資料を持ち合わせておりませんので。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

通告を出しているのですが、その点は資料を持ち合わせてないではちょっと通用しないと思います。何のための通告か分からないのですが。

一応私の方で言うておきますが、この一定以上の所得というのが、これはまず年間収入が280万円以上、それから290万円以上とする2つの案を提示されています。

最初に言った年間収入280万円以上とした場合は、65歳以上の加入者の約2割が対象者となります。先程280万円以上と言ったのは、公的年金等の控除120万円等を差し引いた所得が160万円以上ということです。

次が、290万円以上は、所得が170万円以上という形になります、控除した後。それが住民税納付者の50%が対象となるということで、介護保険利用者が全国的に約430万人おられますが、その内の4～50万人が2割負担になるというふうに言われています。

この基準に照らして、この鞍手町の対象者がどのくらい2割負担に、1割から2割となると倍ですね、倍になるのかということをお尋ねしたかったのですが、それについて資料がないということでしょうか。

○議長 川野 高實君

福祉人権課長。

○福祉人権課長 鯨坂 健二君

すみません、今資料を持ち合わせておりませんので、後日議会事務局を通して提示したいと思います。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

ちょっと質問にならないような感じになってきますが。今回は私の趣旨としては、介護保険が改悪されようとしている中身について皆さんに分かって欲しかったところから一般質問に取り上げています。但し、これは待ったなしの状況なのです。だから真剣に捉えて頂きたいというふうに思います。

3つ目の質問についてですが、低所得者に対して特別養護老人ホーム等、介護施設での食費や居住費負担の軽減を行っているのが補足給付という形であります。この補足給付の基準の条件が厳しくなってくるのです。

一定の預貯金、例えば単身で1千万円以上だとか、夫婦で2千万円以上の預貯金がある。それから固定資産税の評価額で2千万円以上の不動産を持っていたとしても、この補足給付が受けられない。

年間収入が少ない方でも不動産を持っていれば受けられないという形になっているのですね。このため、低所得者への影響、結局は不動産を売ってからしなさい、預貯金を取り崩して入りなさいよとか、という形になっていくわけです。ですから相当な影響が出るのではないかというふうに思いますが、この影響についてどう考えているのかを教えてください。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

やはりお年寄りに対してはかなり大きな負担になろうかと思います。これも追って内部で検討をさせてもらってよろしいでしょうか。

今、私の手元にある資料が、まだまだ検討段階の資料しか頂いておりませんので、こうなったということでない、これも今、私がここで答えるべきではないのではないかなと、そのように思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

あまりそこは詰めませんが、もうちょっと真剣に取り組んで頂きたい、答弁を準備して頂きたい。厚労省の社会保障制度審議会介護保険部会というのがありますが、ここは社会保障制度改革国民会議の最終報告書を受けた議論を8月末から11月末までかけて取り纏めを行ったところなのです。ですから最終報告書だとかというのは、情報として出ているのです。そういう意味で、先程取り上げたのは3点ぐらいしか取り上げていませんが、その

他にもいろいろあるわけです。特養ホームの中程度、または重度の認定の方に厚くするだとか、ディサービスも再編縮小するとか、いろいろな問題が含まれているのです。ですから、そこはしっかりと精査してもらって、対応出来るような形をまず取ってもらいたいということと、特に自立互助だとか、そういう名の下に、また家で生活を送りたいとか、家で亡くなりたいとか、いろいろな思いを逆手にとって、施設から在宅にどんどん追いやろうとしている政策なのです。

しかも、在宅に移っても、お金の無い人はサービスがなかなか受けられないという形にもっていかようとしている内容がたくさん含まれているので、そこは真剣に捉えて精査して頂きたいと思います。もう一度答弁をお願いします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

今、議員がおっしゃいましたことを、まずはきちっとした法案が決まりまして、うちの方に通達が来ましたら、それを精査して考えていきたいとこのように思っております。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

実は法案が決まってからでは遅いのです。市町村に押しつけですから大変なことなのです。市町村だけでなく利用者も大変なことなのです。だから介護保険のこういった大改悪の内容を盛り込ませない。

1つだけ、若干保険料を引き下げるという項目があるのです。でもそこは当たり前なのです。そういうことは盛り込んでもいいのですが、そういった大改悪をやらせないことがまず第一ですから、是非、早急に中身を調べて頂いて、是非国の方に強く要望して頂きたいということです。もう一度お願いします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

宇田川議員のお気持ちはよく分かっています。ただ行政としましては、きちっとした法案の内容を精査した上でないと、いまここでどうのこうのと言える立場上にはないかと思えます。

ただ宇田川議員が本当にご心配されていることは重々検討いたしまして、町村会等を通じて協議して行きたいなと思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

立場上なら是非中身は知った上で、これは大変なことだと国にももの申して、これはやらせないようにするとかの立場を取って頂きたいと思います。

次に行きます。

町民のごみ処理負担軽減についてお尋ねします。前柴田町長時代にこのことを一度質問させて頂いたことがあるのですが、宮若市のごみ袋料金の審議会がありまして、そこから１０円引き下げるという答申が出ています。未だにその通りにはなっていないわけですが、流れとしてはもうすぐその流れに行くのではないだろうかというようなことも聞き及んでいます。

ただ、今回の１２月定例会で出された議案の中にも、据置のような中身が盛り込まれていますけれども、それとは別に宮若市では答申がされていると、それに向かってやっていく可能性があるわけで、もしも、これも柴田町長の時に確認させて頂いたのですが、宮若市でごみ袋料金が引き下げになった場合、勿論一部事務組合で、小竹町と鞍手町は同じですから、そこは引き下げていくのか、合わせていくのかというのを確認したいと思います。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

今、議員がおっしゃいました一部事務組合の中で、１市２町で足並みを揃えて行こうということは１１月８日のじん芥組合の正副会議のときに申し合わせはいたしております。

因みに、今回４月から消費税が上がるわけでありましたが、消費税が上がりましても今現在の税込みの１０枚当たり８４０円、それは据え置いて行こうということで１１月８日の日に１市２町で申し合わせをいたしました。実質大きな袋にしては２４円、小袋にしては２０円の値下げになるということになります。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○１１番 宇田川 亮君

今のごみ袋の原価は確認していませんが、以前聞いたときには１枚が１０円しないのです。確か入札で６円なんぼとかと言われていたと思いますが、原価自体が６円なんぼ、１０円としても、今１枚８４円でしょう、あまりにも高すぎると。

行政の言い訳というか、言い方としては、収集料とか処理代にお金が掛かっているとかというような答弁をされますが、しかしそこは税金でやっていけないといけない部分であるし、もう一つは、これは議案質疑のときにももう少し詳しく質問させて頂きませんが、行政が頂いている消費税、特別会計は別として消費税は国庫に納めているのですか。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

一般会計におきましては、仕入れ税額控除と消費税と同額と見なして国庫に納めておりません。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

仕入れ税額控除、仕入れがもの凄く安い値段でされていて、しかも消費税まで上乗せして取っていて、取った消費税は国庫に納めてないという状況なんです。これはあまりにも酷い状況だと思います。消費税を納めている、納めていないについては議案質疑の時にお尋ねしますが、それだけごみ袋料金が低いということなのです。これは宮若市で10円値下げしようという答申が出ていますが、それだけでは中々下げるにしてもあまりにも低すぎる。現状が原価10円もしない状況で8倍の値段を町民から貰っている、これは余りにも高すぎると思います。その点については、是非一部事務組合の中でも、町長の方からも是非お話して頂きたいというふうに思いますが、答弁をお願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

私がかねてからごみ袋に関しては、議員当時から少し高いのではないかとすることは、ずっと思っていました。

私が就任させて頂きまして、何とかこのごみ袋を下げる方法はないのかということも、今現在も1市2町でやっていますが、うちのうち独自で何か方法はないのかということで取り組みは行っております。

まずは世帯数の決め方においても、実質今は7,400世帯で実質計算になっておりますが、実質上本当にそれだけの世帯数があるのかということも踏まえて検討をさせてもらっています。

先程、宇田川議員がおっしゃいましたように、ごみ袋を下げるには税金を投入すればいいのではないかとこの1つの案だと思います。ただ単に税金を投入するだけでは、また税の単費負担が大きくなりますので、それをカバーできるべく削減するところは削減するという、その整合性を保ちながら今検討段階でございます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

是非負担軽減について前向きに検討して頂きたいと思います。

次に、今のRDF事業を行っていますくらしクリーンセンターについては、ごみ収集業者しか搬入出来ないようになっていると思います。例えばごみ袋に入れて収集している分は別として、一般ごみから大量の、例えば引っ越しをするとか、誰も住んでいないので家の家財を全部出すとかというときに大量のごみが出ます。大掃除もそうですが、そういった時にごみ袋でなく収集業者さんに来てもらってそれを運んでもらうと。収集業者さんはそこからお金を貰うわけです。大体2トン車ぐらいで1台8,400円ぐらい頂いていると思うのです。

が、それをくらしクリーンセンターの方に持って行く、でもその分の処理料を収集業者さんは払っていないわけです、分かりますか意味が。

結局は業者さんは収集料だけもらっているわけです。町民も収集料を払っているが、その大量のごみは税金を使って処理しています。この仕組みはちょっとおかしいと思います。

1つは、ここに書いていますが、くらしクリーンセンターに一般町民が、例えば軽トラックを持っている、それに積んでくらしクリーンセンターに自分で持って行けば、キロ幾らとかという形になるかと思いますが、そちらの方が一般町民がごみを出す時よりも遙かに安く上がると思うのです。しかも不法投棄の削減にも繋がって来るのではないかというふうに思います。

変な言い方をすれば、一般の収集業者のみが処理料だけ持って行って、進んでそこに持って行くだけで、その分の利益が上がるという形になっている状況ですから、そこはやはり改善しないといけないと、そのためには一般町民が直接くらしクリーンセンターにごみを持つて行くことが出来るような仕組みを取るべきではないかというふうに思いますが、その点についてお願いします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

今議員がおっしゃっているシステムと料金との兼ね合いですね。これは議員がおっしゃるように矛盾点があるという部分においては、検討課題にさせて下さい。

もう一つは、直接センターの方に捨てに行けるようにしたらどうかということにおきましては、今担当課長レベルで協議をやっているとのことですので、その内容を農政環境課長に答弁をさせます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

お答えいたします。

一般町民の直接搬入につきましては、じん芥処理組合の構成市町においても電話等で問合せがあつて要望があつています。このことを踏まえまして、じん芥処理施設組合の担当課長会議において検討を行い、正副組合長会議に諮っていきたいと考えています。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

そういうレベルの話があつているというのも聞いていましたが、ただそうした場合人員配置とかという形になると思います。そこで逆に、課長ちょっと教えてもらいたいのですが、一部事務組合の会計は黒字ですよね。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

4, 000万円ほどの繰越金が発生しています。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

例えば人員配置をした場合とかというときに、それぞれからの負担金が上がらないように是非やって頂きたい。今言われたように、毎年4, 000万円黒字になるかどうかは分かりませんが、一定の黒字があるのならそこで人員配置をすればとかということも是非話して頂きたいというふうに思います。答弁をお願いいたします。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

検討課題としまして、5点ほどありますので説明させていただきます。

まず搬入の方法、先程言われました搬入に伴う職員の配置、これは人件費が伴ってきます。それと搬入日の回数、週1回にするのか、月1回にするのかというところがございます。それと搬入料金等がございまして、こういうものを検討していきたいと思っております。

先程4, 000万円と言いましたが、平成26年度から消費税が上がります。1, 200万円ほどの支出増になると考えています。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

その辺も是非検討して頂きたいと思います。1点、今言われていますように、一般町民の受け入れで検討されているということです。是非前向きに、早期に出来るようにして頂きたいと思います。

最後の質問にいきます。

防犯灯設置についてです。再来年の4月に新中学校が開設されます。それに向けて今大まかな通学路だとかということも決まっていますが、通学路に際しては、中学ですから部活動等が帰りが暗くなる。特に冬場とか5時過ぎたら暗くて危なくてしょうがないということで、これまで通学路に関しては防犯灯を設置してきた経緯がありますが、それについての整備はどういうふうに考えているのかが1つ。

通学路だけでなく、町民の健康管理だとかということで、今たくさんの方が夕方、夜歩いています。いろいろなところを特には広い歩道等を歩いているのですが、しかし歩道があっても街灯が無く真っ暗というところが幾つかあるわけです。折角健康のために歩いても、ここは真っ暗で怖いというようなこともありますので、是非その辺の場所にも防犯灯を設置して頂きたいというふうに思いますが、答弁をお願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

まず通学路ですが、これは来年度予算に工事費を計上してやっていきたいと思っております。それと、通学路以外の部分におきましては、鞍手町の防犯灯設置協議会に諮りまして、設置方針を決定しておりますので、それに沿って出来る限りなるべく早く設置して行きたいなとそのように思っております。

整備の概要については総務課長の方に説明をさせます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

中学校の通学路の関係の防犯灯の整備ですけれども、地方道社会資本総合整備交付金を活用して26年度に整備したいと考えています。現在試算しています整備予定数を申し上げますが、現時点ではまだ変動要素がありますので、参考値としてご理解頂きたいと思えます。

通学路の変更に伴う新設が326基、既存分のLED化622基で、平成26年度で整備予定数は、今のところ948基を見込んでおります。平成24年度にLED化をしたものが91基ありますので、整備後は町で管理するものが1,039基になる見込みです。

防犯灯の設置方針ですが、先程質問がありましたように通学路を基本に整備をしております。平成9年に開きました防犯灯設置協議会の中で方針が決められて、今日までその方針によって整備をして来ております。大きく5項目ありますので申し上げます。

まず1番目は、集落内の防犯灯は地元で設置管理することとし、町は設置補助金を交付するというので、1基当たり蛍光灯の場合は5,000円、LEDの場合は7,000円を補助しております。

2番目に、区と区の繋ぎ区間の防犯灯は町で設置管理するが、電球切れ等の通報については各区に協力をお願いする。

3番目に中学校の通学路及び鞍手駅を利用する者の通学通勤路の幹線を重点に設置をする。

4番目に、南北中学校校区のバランスを取って設置する。

5番目に、農作物に被害を及ぼさない程度の明るさとするということで、通学路をメインに幹線の整備をすることになっております。それ以外の部分で利用のよくあるところ、それから公共施設周辺、こういったものについては、この方針の中では具体的にはなっていませんので、今後通学路の整備と合わせまして、その部分も含めた方針にしていくかどうかというところを、今度防犯灯設置協議会を今年度中に1回は開きたいと思っております。

中学校の統合策定委員会のメンバーに殆ど設置協議会のメンバーの方が入られています。それ以外に通勤者会、少年補導員の会長さんであるとか、議会からも常任委員長さんに以前開いた時は入って頂いています。その時は常任委員会が3つありましたので3名入って頂い

ていました。そういったメンバーの方をみなさん寄せるという形で策定委員会と防犯灯設置協議会合同でというか、拡大委員会のような形でやって、方針を確認したいというふうに思っております。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

通勤通学路以外、今言われた5項目以外のところもあるかも知れませんが、たくさん歩いているところは、そこは通学路になっていればいいと思うのですが、そうでない場合も幾つかあるのではないかとこのように思います。

是非その辺は、どうやって調べていいかということもあるでしょうが、例えば区の健康管理のことで区長さんにちょっとお願いして調べて貰うとか、いろいろな方法はあると思いますが、その辺もまず調査した上で考えて頂きたいというふうに思います。

もう一つ、これは要望ですが、防犯灯が切れたら通報があったら直ぐ替えて下さい。区と区の繋ぎは町内会でと言われましたけれども、それ以外に通学路は特にさっと対応しないと、夏場はいいのですが、冬は直ぐ対応していかないと、この間に交通事故等も起こっていますから、その辺も踏まえて是非早急に対応して頂きたいという要望をしまして、私の質問を終わります。

○議長 川野 高實君

以上で宇田川亮君の質問を終了します。

次に、5番議員 田中二三輝君の質問を許可します。

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

本日は鞍手町総合計画の進捗と組織強化について、通告に従って一般質問を行います。

第4次鞍手町総合計画では、実効性のある新しい総合計画として、明確なまちづくりの方向性を示し、それを実現するために重点的、或いは優先的に実施する施策を位置づけています。また町民、地域社会と行政がお互いの信頼と役割分担で協働関係を確立し、これらのまちづくりを進めて行くことを、本計画の1つの柱と位置づけることで計画推進の考え方を明確に示しています。今後10年間の鞍手町の新たなまちづくりの羅針盤となる第4次鞍手町総合計画をここに策定します。

これが、現在進行している総合計画の序論にある趣旨の結びの部分というふうになっています。

そこで、まず確認をさせて頂きたいのは、鞍手町総合計画のメインテーマを確認させて下さい。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

第4次鞍手町総合計画は、町の将来像を「みんなの力でいま動き出す鞍手」として、そのキャッチフレーズを「人の力が地域の力」としています。そして、人と人が地域社会のあらゆる場面で助け合い、力を合わせながら暮らし、活動し、力を生み出し、幸せを実感出来る町を目指していま動き出すということとなっています。

そして、まず1つ目に地域の活力を、2つ目に人に感動を、3つ目に暮らしに安心を、そして4つ目にみんなで町をつくるという4つの柱を設けてまちづくりを推進しているところでございます。以上です。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

平成18年度に、以後のまちづくりの将来像として、今言って頂いた「みんなの力で今動き出す鞍手」そして、地域に力を、人に感動を、暮らしに安心を、みんなで町をつくる、この4つの柱で平成27年度を目標年次として掲げられた計画です。

この計画も前期、後期というふうに分かれていて、その後期5年が平成23年度から後期基本計画に沿って進行しているというふうに思われます。この事業の中には200を超えるものがあるというふうに理解をしております。

そこで、後期5年間の3年目が今経過しようとしているこの時点での、それぞれの進捗状況が非常に気になるところでございますが、多くの事業が同時進行している中で、どのように進捗状況を判断されているのかを教えてください。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

まず進捗状況につきましては、企画財政課長に説明をさせます。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

後期基本計画の進捗状況につきましては、4つの大きなテーマを柱に19の基本施策を設け、その中に具体的な事務事業を208設けております。現在計画進行中でありますので、殆どの事業が進行中でございますが、既に達成出来ている事務事業も33ほどございます。また、逆に未着手事業につきましては5事業ほどございますが、計画年度内での達成に向けて今努力しているところでございます。

計画全体で申しますと、概ね6割程度の進捗状況ではないかと判断しております。

以上です。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

住民の実感がないことについてどう考えているかということですが。

○5番 田中 二三輝君

まだそこは聞いていません。

○町長 徳島 眞次君

すみません。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

町長非常にやりにくくなりました。

今進捗状況が約60%程度と、それぞれ終わっているもの、現在進んでいるもの、未着手のものがあるということですが、計画年度内には達成させていくということで、課長の方からの説明がありました。

そこで、第4次総合計画の後期計画がスタートするときに、当時の町長に対して各事業が多くあるわけですが、それを専属の部署で行わないのかというふうな質問をしたところ、各課で行っていくというような回答を頂きました。そこで、全体の進捗管理が非常に、それを逐次把握するということが難しいのではないかなという懸念を持っていたとともに、状況によっては変更ということも必要になるのではないかなというふうに、その時点から考えていたところでございます。

当初の目的を達成するための時間は段々少ないわけですが、職員の皆様方には是非一層の努力をして頂きまして、各事業展開に図って頂きたいと思っております。

そこで、職員の方々が多くの努力によって各事業を実現しようとしている中で、先程、町長が言われました町民の方の実感が伴っていないというふうに私は思っております。それは、新たな事業等々が町民の方々に浸透していないのかなというふうにも思っております。

事業の開始時点において、どのような方法で町民に周知しているのか、その辺を教えてください。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

町が元気になった実感がないというご質問ですが、まだ、おそらく第4次、前町長さんがつくられた計画、いろいろなハード面とかは逐一終わってきているかと思いますが、いろいろなソフト部分においてはまだ途中の部分もございます。

私も第4次計画を見させて頂きまして、ちょっと大きく方針転換というか、将来的に10年後、20年後、50年後を見据えて、この鞍手町をどのような方向性に、町を整備していくのかという部分においては、大きな将来に亘ってのマ스터プラン的なものを1回はきち

っと整備しなければいけないだろうということも、今担当課の方とも協議をいたしております。

インターチェンジも2年前に開通いたしまして、近々、後1年少し掛かるかと思いますが、鞍手大橋も開通の見込みでございます。そうなりますと、現在でも鞍手インターの利用台数というのが6,000台近くに及んでおります。

渡河橋が開通しますと、おそらくこれが段々増えて来るのではないかとということで、当然のことながら中山地区のあの辺が鞍手の核になる、言うなればハブになって頂きたいという願いも込めて核になるのではないかなとそのように思っております。

そういったところも踏まえて、まずは核をきちっと整備して、そして将来的なまちづくり、それと駅前開発も含めましてやっていきたいなとそのように思っております。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

私が聞いたのは、事業開始時点の周知の方法を聞いたのであって、町が元気になるというのは、それもまた次の話ではないかなと思っておりますので、町長よろしく願いいたします。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

後期の策定事業、周知の方法ですが、この後期基本計画を策定した時点で、広報紙の臨時号を作成いたしまして、町民の皆様方にはご報告して周知を図っているところでございます。

以上です。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

その臨時号等々で周知ということは、これは計画の最初のお話ではないかなと思います。その時点では、こういうふうな事業を計画しているというような段階での臨時号だと思いますが、それが具体的に使えるようになったという時点での周知ということについてお伺いをしているのですが。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

後期基本計画の中で、年度毎の進捗状況を報告するというのは、総合計画のこの基本計画の部分については行っておりません。ただこの中で、行財政改革の項目に触れている部分がございますが、この部分については、毎年の進捗状況についてホームページ等で広報

させて頂いているところでございます。以上です。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

全体的な計画、また新たな事業の使用開始時点の周知というのは、僕は一番必要ではないかなと思っております。特にこれを担当している専属の課がない以上、やはり、いろいろな事業が使えるようになったとか、新しい事業がスタートした時点での周知ということについては非常に大事なことでないかなと思いますし、これは隠れたテーマがもう1つあると思います。協働のまちづくりと、自助、公助、共助の中の協働でまちをつくっていくのだということ、その精神というものも、これはやはり町民の方々のご協力というのは十二分に大事なことだと思いますので、しっかりと周知をしていって協力を頂くところは協力を頂くということになるのではないかなと思います。

そういうふうなことで、行政の末端組織として区というものが存在している以上、やはりその代表である区長の方々にご協力を頂くというのも1つの選択肢ではないかなと思っております。

地域のことは区長が一番よく知っていると、よく区長さんはおっしゃっておりますし、また、当然行政の末端組織であれば、協働のまちづくりというものの精神も十二分に理解して頂いていることだと思います。そういう方々のお力を十二分に発揮して頂いて、そういう核、ものの考え方等々を町民の方にもご理解を頂く、そして新たな事業がスタートしたら、そういうものをご利用して頂いてサービスの向上に繋げていく、そのための末端組織であるというふうに僕は理解しておりますので、検討をして頂きたいと思います。

町長、その点についてはどのように感じておられますか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

貴重な意見ありがとうございます。議員がおっしゃるとおりで、地元のことはやはり区長さんがお詳しいかと思っておりますので、区長さんのお力もちょうだいしながら今後進めて行きたいなとこのように思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

次に、組織強化のところに質問を替えさせていただきます。

行財政改革は財政面の経費の節減と効率性ととともに、行政サービスの質を向上させることが目的であるというふうに私は理解をしています。

行政運営においては、みなさんの税金を無駄なく、効率よく使うと。使い方は最少のコストで最大の効果を上げるというのが行政改革だというふうに考えます。その結果として、い

ろいろな事業を展開してまちが元気になると、こう繋がっていくように体系づければ体系づくのではないかなというふうに理解をしております。

そこで第4次鞍手町総合計画の下、鞍手町は本当に元気になっているのか、町長はどのように感じておられるのかということをここで聞きたかったのですが、先程インターチェンジ云々とか、いろいろなことを言われまして、その部分をハブにするというようなことも先に答えて頂きましたので、町長、もう一度その辺をはっきり答えて頂けますか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

議員がおっしゃるように、町が元気になるというのは、1つはやはり、私は何度もここで申したことがあると思いますが、どんなによい政策をもってしても人がいないところでは経済も活性化ありませんし、活気もございません。

まずは定住人口を増やすと、それともう1つは昼間の流入人口、入ってくる人口も増やしたいという思いがございます。これは町の元気ということと、今申しました人口の関係、これというのは相関関係にあると思うのです。ですからたくさん流入人口、若しくは定住者が増えることによって、これは正の相関関係になり、逆に人口が減って来るとマイナスの負の相関関係になって来ることになってくると思っております。

まずは、やはり議員の力もお借りしながら定住者を増やして行くということにおきましては、先程申しましたような鞍手大橋、そしてインターチェンジが幸いにしてインフラが整ってきておりますので、これを大いに活用して鞍手町のハブを作って行きたいと思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

町長のお答えを頂きましたが、町長のお考えの中にこれからという言葉があったということとは、町長ご自身も鞍手町はまだ元気になっていないと、元気になりつつあるというふうには思われてはいないということで、私と同じような感じを持っておられるのかなというふうに思います。

当然ハード面における変化というものにつきましては、インターや橋等々がありますが、それだけでなく、私が鞍手町に戻って来たのは今から約20年前、その時点から鞍手町の道路状況というのは、そんなに大きく変わっていません。道幅が広がったとか、道路が新しく通ったということはインターの工事開通、それに関するものだけであって、その外のものというのは大きく変わっていないというふうに感じています。

それから特に大事なものはソフト面、これは第4次鞍手町総合計画で減りすぎた職員の数、これが僕は一番のモチベーションの低下に繋がっているのではないかと思っております。行政サービスの先頭に立って頂いている職員の方が余りにも減少しすぎたがために、現在のよ

うな状況が現れているのではないかというふうに思います。日々の業務に追われている状況下で、町を元気にするための新たな提案や発想というのはなかなか生まれてこないのではないかとそのように思います。

ご存じのように第4次鞍手町総合計画には、残念ながら組織維持のための職員の増員計画、採用計画というものは全く謳われていない。これは私の読み方がわるいから、その部分を読み取れないかも知れませんが、私はそのように考えています。

従って、今回課の編成や人員配置等々のことにつきましては、今回議案に出ている案件に抵触するところがありますので、その辺については一切触れませんが、組織を構成する現時点の人員ピラミット、これも歪な形になっているというのはお聞きしなくても分かっているという状況にある職員の方々の、今後の住民サービスの向上を図るためには、僕は是非職員の増員は必要不可欠だと思います。その辺について町長はどのようにお考えですか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

私は町長をさせて頂きましてから、いろいろなことに取り組みを行っております。例えば、観光課ですか、そういったこともありますし、シンガポールに事務所を出して世界戦略でいろいろな物資を売っていこうということも掲げておりますし、また独居老人の方の死亡事故を絶対出してはいけない。それとお年寄りに寂しい思いをさしてはいけないとか、上げればたくさんございます。

そういったことを担当課の方に、いろいろと協議をしながらやっているわけではありますが、議員がおっしゃるように、正直いいまして人手がちょっときついような状況ではございます。来年度からそういった面も含めまして、例えば、観光事業におきましては中途採用といいですか、それだけの、例えば5年なら5年これをやるために来て下さいという、言うなれば即戦力になるようなスペシャリストを人員配置やって、そこのプロジェクトチームを作ってやっていこうというようなことも1つの案として考えております。

人員配置におきましても来年度からなお一層踏み込んで取り組んでいきたいとそのように思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

計画的な採用計画というのは僕は必要不可欠であって、組織の維持、そして住民へのサービス向上という2つの柱をきちっと考えてやっていくべきだというふうに思います。

なぜこの総合計画はそういうふうな形になっていなかったのかというのは、僕はちょっと疑問が残るところです。

何でこんなことを言うかというと、6月議会のときに、私の一般質問で町長が、自分が考えている組織構成が出来ないというような意味の発言がちらっとありました。そのことが非

常にぼくは気になった。

言葉は違うかも知れませんが、一言一句町長が言った通りではないと思いますが、そういう意味に於いて町長が考えている組織体系が出来ないということが非常に気になったので、いまそういうふうな質問をさせて頂きました。

本来であればここで、貴方が考えている課の構成や人員配置はどのように考えているのかということを知りたいのですが、議案に抵触いたしますので、先程も申しましたとおり、その点についての質問は差し控えさせて頂きたいと思います。

そこで第4次鞍手町総合計画で減りすぎた職員数、更には財政面での改善という言葉の下に、給与面においてもかなり減額されている、そのような状態で職員が本当にモチベーションが上がるか。僕は下がる要因ばかりだと思います。町長それはどのように思いますか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

その辺の考えは田中議員と私は全く同じ考えでございます。まずは、私も就任させて頂いて1年にも経っていませんので内容を精査して。それとバランスシートですね、要は鞍手町がどのように収益があって、そしてそれに対する支出ですね、その税金の収益が、会社で言うところの損益計算になるのですが、そういったところがまだはっきりと私はまだ10ヵ月足らずでよく踏まえておりません。

今おっしゃいましたことをちゃんと頭に入れながら、それと税金がどのような流れで、どのような部署でどうなっているのかということとちゃんと頭に踏まえて、職員にはとにかく私が言っているのは、頑張ってくださいと、頑張れば皆さん方の報酬も私は考えたいということも述べております。

そういったことで、職員のモチベーションが下がらないように、努力した者は当然やはりそれなりの報酬はあってしかるべきだと私はそのように思っておりますので、その方向性で来年度から更に取り組んでいきたいなとそのように思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

田中二三輝君。

○5番 田中 二三輝君

行政サービスの面において、先端でその力を発揮して頂くのは、これは職員の方というのは誰が考えても分かると思います。その方々の発想、そして行動等々によって町が元気になっていく、そういうものも1つの、実感して頂く、そういう面も出て来るのではないかと思います。

町長は日頃経営者というようなことも口にされています。経営者から見た場合の組織と、それを構成する職員、このときに経営者たるべき者が頭に思い浮かべる人材という言葉、町長いま頭に浮かびますよね、当然人材という文字が。当然町長の頭の中には人材の材の字は材料の材が浮かんでいるのでしたら、私はとてもじゃないけど経営者として認めることは出

来ません。

人材の材の字は、これは宝の財、財産の財、これがあたる。これは当然にして思い浮かんでいるものだというふうに思います。組織の財産である職員の方々が日々その持てる力を十分に発揮して頂き、そのための組織の再編、そして増員計画等々、今後将来に亘る鞍手町の役場組織、行政サービス、これが向上出来るような形に積極的に取り組んで頂きたい、そのことを申し添えて一般質問を終わります。

○議長 川野 高實君

以上で田中二三輝君の質問を終了します。

次に、2番議員 須山由紀生君の質問を許可します。

須山由紀生君。

○2番 須山 由紀生君

通告に従いまして質問をいたします。

八尋の南ヶ丘というところに不動面池というのがありますが、この漏水について質問をいたします。

まず最初に八尋南ヶ丘の不動面池の水漏れですね。これは昨年の7月に地域の住民の方から要求が出ています。これは南ヶ丘というと30年ぐらい前に出来た団地なのですが、現在はこの池は農業用として全く利用されていないということでした。この不動面池の排水溝について質問いたします。

この池は、以前は農業用水等に利用され、排水溝もあったらしいのですが、私の聞くとところでは30数年前に隣接する南ヶ丘団地の造成工事のときに潰れたのではなからうかと聞いています。その後、別の位置に排水溝が設置されたらしいのですが、これも6～7年前に原因は分かりませんが潰れてしまったような状態です。こういった状態で現在この池には排水溝が全くない状態になっています。

こういう状態ですので、最近集中豪雨やゲリラ豪雨、こういったのが大変多く、この大雨が降った場合には池の堤防が決壊し、大きな災害にも繋がるのではないかと近隣の住民の方は非常に心配をされておられます。また事実、隣接する民家の敷地に排水溝がないためか、堤防から池の水がどんどん沁み出して来て、民家の畑は若干沼地状態になったところがあります。非常に困っておられています。沁み出しているだけならいいのですが、万が一堤防が決壊して池の水がそこから流れ出せば、当然かなりの被害が出ることも想定されます。

そういったことで、地域の方が以前より再三改善の要求をされているそうです。いま現在の住民要求の進捗状況がどうなっているのかお尋ねをいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

この件につきましては、昨年要望を頂いておりまして、具体的な進捗状況をお知らせしなかったことに関しまして、私が気がついておりませんでした。本当に申し訳ございませんで

した。

進捗状況につきましては、担当課の課長の方に説明をさせます。以上でございます。

○議長 川野 高實君

建設課長。

○建設課長 森 茂樹君

お答えいたします。

この溜め池につきましては、飯塚農林事務所の職員及び土地改良連合会の専門のアドバイザーがございまして、その方に現地を確認して頂きました。溜め池の決壊等につきましては、現段階では問題ないと、但し、溜まりすぎた水を放流する余水吐き及び放流水路がないので、これに関しては設置する必要があるというふうに指導を受けております。

現在の進捗状況としましては、余水吐き及び放流水路の設置箇所、その用地及び工事車両の進入路等につきまして検討を行っている次第でございます。以上です。

○議長 川野 高實君

須山由紀生君。

○2番 須山 由紀生君

今担当課長が言われたように、担当課としてもいろいろな事項を心配しながら努力はされていると思います。

大雨による土砂崩れ等の災害は温暖化が原因なのか、最近では全国で頻繁に起きています。近々の災害では、まず平成24年九州の北部豪雨ですね。これに始まり今年10月の台風26号に伴う豪雨による伊豆大島の豪雨災害、そして先月の11月21日に発生しました秋田の由利本荘市の土砂崩れ、この土砂崩れでは5人の作業員の方が犠牲になられています。これらの豪雨災害ではいずれも多く犠牲者が出ています。

いま担当課長の方からも問題がないというふうに言われましたが、災害を未然に防ぐためにも、これは万が一のことがありますので早めの対策が必要ではないだろうかと思えます。

先月の23日に西川小学校で行われた人権講演会で、講師の犬鳴川流域文化研究会代表の澤田憲孝先生がこう言われていました。特に八女の星野村の土砂崩れについてですが、崩れたところを調べて見ると、殆どのところが排水溝がなかったり、詰まっていたりしていたそうです。結局水の流れが遮断されてそういった事故が起きるのが原因ではなかろうかと言われていました。なるほど水が吐けなければ、そこに大量の水がどんどん溜まってきて、土砂崩れが起こりやすくなるのは当然のことだと、私も素人考えで思えます。

このように土砂崩れの要因には、排水溝が大きく関係していると澤田先生は言われていました。この先生の講演を聞きまして、排水溝があると、なしでは災害を未然に防ぐためには非常に重要な問題であると私も認識させられています。と同時に私と同じように、この講演を職員の方もたくさん聞かれて、私と同じ思いをされているのではないだろうかと思っております。これらを鑑みまして、再度町長のご意見をお聞かせ下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

須山議員がおっしゃるとおり私もそう思います。まだ現地には行く暇がなく、まだ行っていないのですが、一度現地にも行って調査をして何とか早めに対応を取りたいとこのように思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

須山由紀生君。

○2番 須山 由紀生君

鞍手町は財政難も大変でしょうが、この問題を先延ばしにしておいて大変なことに万が一なるのではないかと思っております。絶対に安易に考えてはいけない問題だと私は思います。

また災害は、いつどのような形でやってくるか本当に分かりません。常識では計り知れないものがあります。

現地に行かれたら分かりますが、この池の下には直ぐ民家があります。そこにはお年寄りや子どもさんも生活しておられますし、一旦土砂災害が起きればこれらの住民の方の人命にも関わる大きな問題に発展していき、町としての責任問題までにも発展していくのではないだろうかと私は思っております。長年放置されていたこの問題を是非緊急の課題として取り上げて頂きたいと思います。

次に、通告に書いていますように、この不動面池の再利用についてですが、もしこの池が全く必要ないのであれば、事故が起きる前に、早々に埋め立ててしまっただけで宅地にするとか、公園にするとか、有効な活用が出来るのではないかと思っております。これは私の提案ですが、この辺、町長のご意見をお聞かせ下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

土地利用、埋め立てた後の土地利用云々というご質問ですが、まずはやはり、そこに水が溜まっているというのは、何らかの形で雨水等がそこに流れ込んで溜まるべくして溜まったという考えからすると、安易にそこを埋め立てたらその水がどこか逃げ場がなくなって、周りが洪水になるとかということも、ひょっとすると、これは分かりませんが考えられなくもありませんので、まずは実態調査の方からやらせて頂いて、もしそれでも埋めて大丈夫だということであれば、その辺のところも検討課題に入れながらやって行きたいなと思っております。

それと土地は国有地みたいですので、ですからそういった部分においては埋め立てが可能であれば、その方向性も考えていきたいなとそのように思っております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

須山由紀生君。

○ 2 番 須山 由紀生君

是非、最善の方法を取って頂くようお願いしまして私の質問を終わります。
ありがとうございました。

○議長 川野 高實君

以上で須山由紀生君の質問を終了します。
これで全ての一般質問は終わりました。
この際休会についてお諮りします。
明日 10 日を休会としたいと思います。
これにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって明日 10 日を休会とすることに決定しました。
以上で本日の日程は全部終了しました。
本日はこれで散会します。

散会 14 時 18 分

平成25年鞍手町議会第9回定例会会議録（第3号）						
	平成25年 12月11日					
招集場所	鞍手町役場議事堂					
開閉会日時 及び宣告	開 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月11日 午後1時00分				川野高實	
	閉 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月11日 午後3時16分				川野高實	
出席及び 欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠 の別	議席 番号	氏 名	出欠 の別
	1	熊井照明	出 欠	11	宇田川 亮	出 欠
	2	須山 由紀生	出 欠	12	岡崎 邦博	出 欠
	3	星 正彦	出 欠	13	栗田 幸則	出 欠
	4	一	出 欠			
	5	田中 二三輝	出 欠			
	6	原 哲也	出 欠			
	7	川野高實	出 欠			
	8	須藤 敏夫	出 欠			
	9	久保田正之	出 欠			
出席 12人 欠席 0人 欠員 1人	10	武谷 保正	出 欠			
会議録署名 議員	5	田中 二三輝		6	原 哲也	

職 出	務 席	議会事務 局長	渡 辺 智 文	出 欠	議会事務 局長補佐	武 谷 朋 視	出 欠
地方自治法 第121条 により説明 出席者の 職氏名		町 長	徳 島 眞 次	出 欠	会計課長	久 保 田 隆 一	出 欠
		副町長	本 松 吉 憲	出 欠	建設課長	森 茂 樹	出 欠
		教育長	水 摩 幸 隆	出 欠	企画財政 課 長	三 戸 公 則	出 欠
		総務課長	白 石 秀 美	出 欠	上下水道 課 長	原 敏 勝	出 欠
		福祉人権 課 長	鯨 坂 健 二	出 欠	教育課長	筒 井 英 和	出 欠
		税務住民 課 長	藤 原 光 徳	出 欠	保険健康 課 長	長 友 浩 一	出 欠
		農政環境課長 兼農業委員会 事務局 長	篠 原 哲 哉	出 欠			
議 事 日 程		別 紙 の と お り					
付 議 事 件		別 紙 の と お り					
会 議 経 過		別 紙 の と お り					

平成25年第9回鞍手町議会定例会議事日程

12月11日 午後1時開議

第3号

- 日程第1 議案第87号 鞍手町督促手数料及び延滞金徴収条例
- 日程第2 議案第88号 鞍手町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第3 議案第89号 鞍手都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第4 議案第90号 鞍手町営住宅管理条例の一部を改正する条例
- 日程第5 議案第91号 社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律並びに社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例
- 日程第6 議案第92号 鞍手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第7 議案第93号 鞍手町課室設置条例等の一部を改正する条例
- 日程第8 議案第94号 平成25年度鞍手町一般会計補正予算（第5号）
- 日程第9 議案第95号 平成25年度鞍手町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第10 議案第96号 平成25年度鞍手町流域関連公共下水道事業特別会計補正予算（第3号）
- 日程第11 議案第97号 平成25年度鞍手町かんがい施設維持管理運営費特別会計補正予算（第1号）
- 日程第12 議案第98号 平成25年度鞍手町泉水団地改良住宅移設事業特別会計補正予算（第2号）
- 日程第13 議案第99号 平成25年度地方独立行政法人くらて病院貸付金特別会計補正予算（第1号）
- 日程第14 議案第100号 平成25年度鞍手町水道事業会計補正予算（第2号）
- 日程第15 議案第101号 財産の処分
- 日程第16 議案第102号 平成25年度鞍手町中山西区用地造成事業特別会計補正予算（第2号）
- 日程第17 議案第103号 平成25年度鞍手町一般会計補正予算（第6号）

平成25年12月11日（第3日）

開議 13時00分

○議長 川野 高實君

これから本日の会議を開きます。

これより日程に入ります。

日程はお手元に配布のとおりです。

日程第1 議案第87号 鞍手町督促手数料及び延滞金徴収条例を議題とします。

質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

第6条の延滞金の減免です。町長は延滞金を減免することができるというふうになっていますが、やむを得ない事由があると認める場合ということですが、中身について、どういうやむを得ない事由ということになっているのか教えて下さい。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

やむを得ない事由とは、法令で具体的に定めがあるものではありません。一般的には災害等に罹災した場合とか、不慮の事故にあった場合、病気や怪我などの場合等の外、生活の困窮、原因は個々に様々なケースがございます。

具体的には、やむを得ない状況が一時的なものなのか、長期に及ぶものなのか、その状況を改善できる余地があるのかないのか等が、真にやむを得ない事由であるかないかを判断する目安になると考えております。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

とすると、いま課長が言われた、例えば生活に困窮するとかということも含まれるということですが、延滞金というのは、普通の一般に比べてもの凄く利息が高いのです。それこそ利息の方が何年も延滞していたら元金を上回るような形もあって、それを全額といったらなかなか払えないし生活が出来ない。

ある程度元本と言いますか、滞納したものについては払えるけれども、なかなか延滞金については、そこまで難しい、そこまで払っていたら生活に困窮するとかという形も考えられると思います。そういった場合に、最終的には町長の判断というふうになるのですが、一つ一つ町長がこれはいいよ、わるいよとかということではなくて、やはり現場で課長なりが判断することになると思いますが、そういった場合はどのように考えておられますか。判断と先程事例を挙げた部分について。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

場合によっては関係省庁の通達等で基準が示されているという場合もありますけれども、それも拘束力を持つまでにはないと、法で決められたものではないので、参考意見となる程度のものであるというふうに思います。

例えば、厚生労働省の通達では、個別具体的な事案に応じて判断されるものであるとされています。客観的に真にやむを得ないものであるかどうかの判断は、一般社会的に誰が出来るのかというと裁判所ということにもなりますけれども、その都度裁判所の判断を仰ぐのかというと、これも現実的ではありません。

そこで首長の判断というのは法令に明確な規定はないのですが、行政裁量行為と呼ばれるものの中である程度、今回の延滞金の場合等は徴収することが出来ると、徴収しなければならなくなっていると思いますので、出来るとされているものについては徴収しないことも出来るという判断もあるわけで、その辺を各行政庁である市町村の判断で、政治的、政策的な判断ということに委ねられているというふうな理解になると思うのですが、そういうもので判断していくというふうになります。

実際、困窮されている方が、確かに延滞金の方が元々の料金よりも上回ってしまって、いくら返しても延滞金が少し減る程度で、更に延滞金ということにもなりかねません。そういったケースというのは、まず元の料金、或いはきちっと整理されるような方向でいきたいというふうに考えています。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

熊井照明君。

○1番 熊井 照明君

同じところなのですが、11月30日の西日本新聞に直方市のことが書いてありました。直方市の子ども育成課のことが書いていたのですが、まともに納めている人と不公平感があるのは好ましくないということで延滞金導入に踏み切ったということが書いていました。これはインターネットから出したのですが、鞍手町も延滞金は徴収をするのですね。今まではしていなかったのですが、その辺をお願いいたします。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

原則としては徴収する方向ですけれども、それぞれの方々の状況を十分斟酌して、払える状況がなければ、そこは減免の措置の中で考えて行くということにしています。

○議長 川野 高實君

熊井照明君。

○1番 熊井 照明君

じゃあ今回条例が改正されますけれども、その周知方法というのはどのようにされるのですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

広報紙等でお知らせをすることと、またそういった状況にある方には直接ご連絡をするという方法も考えています。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 87 号は民生産業委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 87 号は民生産業委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 2 議案第 88 号 鞍手町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

後期高齢者医療というのは、町が広域連合に変わって保険料等を徴収するという事で、延滞金については町の、先程の 87 号に準ずるということにもなってくると思いますが、いずれにしてもそこも先程のような内容は適用されるのか。延滞金が発生した場合にそのもらった延滞金はどこに行くのでしょうか。広域連合に保険料の延滞という形になるのですか。

○議長 川野 高實君

保険健康課長。

○保険健康課長 長友 浩一君

まず 1 点目の減免の関係ですが、これは先程ありました議案第 87 号と同じような考え方で、後ほど減免に関する要綱等を作ろうかというふうに考えています。延滞金をとった分については、これは広域連合に納めるということになっています。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

裁量によるということで、延滞金を取る取らないは鞍手町の裁量ということで、取る場合と取らない場合という差があっているのでしょうか。延滞していてもここは取っていないか

ら納めていません、ここは延滞金を取りましたから納めますという形でいいのでしょうか。

○議長 川野 高實君

保険健康課長。

○保険健康課長 長友 浩一君

延滞金につきましては、そもそも広域連合の中の条例にあるのではなく、構成しています各市町村の条例の中に延滞金の規定があります。鞍手町も延滞金を取るということで、前は平成21年でしたか、ちょっと改正もしていますが、今回延滞金について、例えば要綱を作るとなれば鞍手町独自のということで、例えば福岡県下の中でも60市町村ありますが、実際に取っているところと、取っていないところもあります。

取っていないところが20市町村ありますので、足並みが全部一緒かというところではありませんので、先程言いました要綱につきましては、例えば国民健康保険の一部負担金とか、国民健康保険税の減免とか、災害とか、生活の困窮、似たような分がありますので、それを同じように適用する。担当によって判断がまちまちにならないようにということで、要綱等の整備を図っていこうというふうに考えています。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

町の要綱というのはいいと思いますが、こういう場合は取るとか取らないとかはいいのですが、それだけ広域連合の中で足並みが揃っていない。

広域連合の会計の中で延滞金を取っているところと、取っていないところと集まって、それをまた会計で歳出の方に使うとかということは公平性に欠けるという気がするのですが、広域連合議会の中でそういった問題は出ていないのでしょうか。

○議長 川野 高實君

保険健康課長。

○保険健康課長 長友 浩一君

私も昨年から保険健康課にいますが、過去にもそういった話は私自身、今お尋ねのことについては情報としては持ち合わせていません。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第88号は民生産業委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第88号は民生産業委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第3 議案第89号 鞍手都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部

を改正する条例を議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第89号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第89号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第4 議案第90号 鞍手町営住宅管理条例の一部を改正する条例を議題とします。

質疑はありませんか。

熊井照明君。

○1番 熊井 照明君

今回町営住宅の家賃は、判例に基づいて延滞金の徴収に関する規定を削除することになっておりますけども、私債権になれば民法の規定が適用されると思うのですが、遅延損害金については、これは適用しないのですか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

民間の場合は契約上取るようになっているのですが、その辺は私の記憶が定かでないのですが、公営の場合は取ってはいけないようになって、その辺が曖昧ですので調べて、後で答えたいと思います。

○議長 川野 高實君

熊井照明君。

○1番 熊井 照明君

一応約定で金利を決めるとかいろいろあるのですが、そういうものがなければ大体民法の404条と419条の規定によって、法定の利率は大体5%とするように一応民法の中には書いてあります。今まで12.3とか7.6とかというのが法律によって私債権ですから、延滞金についてはこの分を削除するというのは理解できるのですが、それなら私債権であれば民法の規定を適用して私は徴収すべきだと思います。また条文についても出て来たら条例の中に記入した方が私はいいと思います。調べて出されるのでしょうか、その結果は教えて下さい。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 90 号は民生産業委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 90 号は民生産業委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 5 議案第 91 号 社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律並びに社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例を議題とします。

質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

一般質問のところでも少しお尋ねしましたが、今度は公共料金に係わる部分での消費税の転嫁という形になってくるのですが、同じ質問をしますが、国庫にこの消費税は納めていますか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

民間でも同等のサービスを提供できるものは民間が不利にならないように、公営でも課税をなさいということになっていますが、国や地方の一般会計では消費税法第 60 条第 6 項に基づきまして、売り上げにかかる消費税と同額を、仕入れにかかる消費税額として控除できることになっております。よって納めておりません。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

払う方は消費税を納めているのです。だけど貰う方が消費税を納めていない、仕入れにかかる部分との消費税の分と同額とみなして差引 0 円ですね。ですからこれは上げていないのに消費税を転嫁するというのはちょっとおかしいことではないだろうかというふうに思うわけですが。勿論どこかの会議室を借りたりとか、いろいろすればそれに係わる電気代とかに消費税とかが付いてきます。けれども、その分に払う部分とは質が違ってくると思うのです。

公共料金の使用料だとかというものについては一応決めています。勿論電気代、維持費とかという部分までは使用料としては、おそらく安い部分で、これは行政サービスですから儲けようとしての部分ではありませんから、そこに消費税を新たに転嫁するというのはおかしいことだというふうに思いますが、その点についてお答え下さい。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

議員がおっしゃるとおりだと思いますね。ただ、これは受益者負担ということで、現在の価格が使用料だというふうに、できれば認識して頂きたいと思います。それともう一つ考え方として、例えば行政で町内目的税として預かった分の消費税は、例えば教育に使うとか、そういった形で町内の中で預かり消費税を、預かりというか、いろいろな公共施設の利用料の消費税分は目的税として町内の中で、みんなで知恵を出し合って、その目的税として使っていくというふうなやり方も1つの手立てではないかなと思っております。

これはちょっと検討させて下さい。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

目的税と町長は言われましたが、その目的がはっきりしていない中で消費税だけ今のところ取っているわけです。勿論目的税にするのでしたら何らかの条例が必要なのかどうか分かりませんが、いろいろな要綱とかが必要になってくると思うのです。それ以前に使用料として消費税分を乗じて、使用料を定めた部分に乗じてやるというふうに書いているわけですから、ここは正に消費税の転嫁なのです。

使用料として必要ならその分を値上げすればいい。わざわざ消費税を転嫁しなくても、最初から500円なら500円と決めるとかという形をとらないと、これは消費税だけ利用者から取って、しかし取った消費税は国には納めていませんよ、これはちょっとはっきり言って騙しというか、という形になって来るのではないかと思います、もう一度お願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

議員がおっしゃるとおりで、これは消費税の転嫁ということに条例で謳ってありますので、これをいっそのこと消費税じゃなくても単一料金として、この使用料は幾らですよというような書き方にした方がシンプルでいいのかも知れないですね。

○議長 川野 高實君

ここでしばらく休憩します。

休憩 13時23分

再開 13時24分

○議長 川野 高實君

会議を再開します。

税務住民課長。

○税務住民課長 藤原 光徳君

消費税法上、センターの使用料というのは民間と競合しますので、消費税の非課税に該当しないです。例えば税務住民課の証明の手数料とかというのは民間とは当然競合しませんので非課税扱いにはなりますけれど、センターの使用料とかというのは消費税をかけないで使用料自体を上げて消費税を付けなければ、民間が例えばするときには消費税は必ず付けますので、公営でするのは消費税を付けないかというのは民間との公平性が保たれない関係で、必ず付けなければならないようになっていきます。

消費税を丸々自治体の儲けになるかということ、そうではないということです。というのは、電気代等光熱水費は消費税の改定分として上昇します。また、警備の業務委託など施設管理に関する支出額も消費税が影響してきます。

使用料で管理費を賄いきれない、言い換えれば持出がある施設については支出額が大きくなる可能性がある、こういう場合は消費税はかけなさいということになっています。

以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

どの法律に基づいて言われているのかを教えてください。

○議長 川野 高實君

税務住民課長。

○税務住民課長 藤原 光徳君

掛ける、掛けないというのは、先程総務課長が言いましたように消費税法第60条第6項の規定です。そして非課税にあたるか、あたらないかというのは消費税法の別表第1第5項にあります役務の提供の中に上げていますが、別表第1の中にあります。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

民間と競合するからかけなさいよ、でも民間は消費税を払っているわけです。国庫に納めているわけです。だけど公共団体は、先程課長が言われました消費税法第60条第6項に基づいて、これはおそらく内税という形になってきて差引0円、貰ってもその分同額を支払っていますよということで、そういう形になっていると思うのですが。しかし実際問題としては町民が消費税を払って、それを差引0とかということは考え方としてあり得ないのです。払っているのにそれは全然生かされていないし、そこはちょっと転嫁するかということは本当におかしいと思います。

先程言いましたように、使用したら、使用した分の電気代が上がりました、消費税の税率も上がってその分高くなりました。だけどそれはそれではないですか。だから使用料が上がるわけで消費税はそれに伴ってその分全部上がっていくかといったら、支出が増えるかといったらそうではないと思います。

先程言いましたように、これは行政のサービスですから、これは最初から儲かるとか、儲かるようなものではないのです。住民へのサービスということですから、その辺の考え方、消費税を取ってそれを上げていないということ自体がおかしなことだと思います。

何回言っても一緒でしょうが、もう少しちょっと民間との整合性が保たれないとかでなくて、これは税金で運営しているわけですから、町民が税金でやって、国庫に納めていないのに利用料に消費税まで入れるということ自体、その考え方自体がおかしいと思います。もう一度お願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

これは消費税法の 60 条の 6 項に謳っていますので、地方自治としては法律に準じなければならないということになっておりますので、その辺のところはご理解して頂ければと思っています。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

第 60 条の 6 項は消費税額を同額とみなして控除することが出来ると謳っているだけなのです。掛けなさいとかということを謳っているわけではないのです。これは上がっても消費税を貰っても、これは国に払わないでいいですよということが書いてあるところが第 60 条の 6 項なのです。そこはちょっと一緒くたにしてもらいたくはないと思います。

○議長 川野 高實君

ここでしばらく休憩します。

休憩 13 時 32 分

再開 13 時 33 分

○議長 川野 高實君

会議を再開します。

町長に答弁を求めます。

○町長 徳島 眞次君

控除の特例というのが、国、地方公共団体、公益法人等の仕入れ控除税額の計算の特例というのがあるみたいです。委員会審査まで時間を頂いて、内部で詰めさせて頂いてよろしいでしょうか。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

岡崎邦博君。

○12 番 岡崎 邦博君

今回のこの条例は、関係条例の整備に関する条例ということで、9 本の条例をまとめて条

例にしているわけですが、今まででしたらそれぞれ1本ずつを、条例を改正する場合は条例の一部を改正する条例ということで行って、その条例はいつ改正したかというようなことで条例の中に謳っていくわけで、いつから実施する、施行日はいつということで附則の方に書いていくわけですが、このように1本に纏めて改正したときに、例えば表記として一番最初の方に何々に関する条例とでます。改正がいつしたと、こういう場合纏めてしたら、この条例に基づいていつ改正したとか、そういう表記又は附則についても、そういうのが必要になるのではないかなと思うのですが、その辺についてはいかがでしょうか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

今回のこの条例に基づいて改正したということは、結局溶け込み方式の中では出てこないのですが、それぞれの個別の条例の中では、附則の中にいつ改正したということが上がってくるということになります。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

ということはこの関係条例を整備する条例は謳い込まなくていいということになるのですよね。ということは、普通でしたら一部を改正する条例自体はなくなってしまうわけですが、その中に入っていくからですね。この条例自体はずっと条例として残っていくということになるのですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

この条例も一部改正条例なわけですから、それぞれの条例の中に改正された分が溶け込んでいて、これ自体はなくなります。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

ということになると、改正された日にちと中身はそこで出るのですが、どういうことに基づいて、どの条例に基づいてとかということにはならないから、今回こうやって纏めた条例自体がなくなると、過去に遡ってどうやって改正したかというのが分からなくなっても別にかまわないのですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

それぞれ一部改正条例の場合でも、やはり溶け込んだ一部改正条例というのは例規等には

載りませんので、溶け込み方式というそういうやり方ですので残りません。これも同じ取り扱いになります。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第91号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第91号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第6 議案第92号 鞍手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

熊井照明君。

○1番 熊井 照明君

町長にお尋ねしたいのですが、9日の一般質問の中でも出ていましたが、値下げになるということで、11月8日に1市2町で足並みを揃えるということで、今回ごみ袋と証紙が24円から45円ぐらい、実質引き下げになっておりますけれども、この値下げをした理由というのは何かを教えてください。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

これは1市2町の首長が集まりましてじん芥の議会の中で、事前に私と小竹の町長の有吉市長と話し合いをいたしまして、そして消費税が上がるけれどもごみの料金は近隣に比べると高いから、今回は据え置きで行こうという政治的な判断の下、決めさせて頂きました。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

熊井照明君。

○1番 熊井 照明君

ごみ袋が高いということで値下げをしたということですね。それはそれで安くなるに超したことはないのですが、ただ平成27年の10月には消費税が10%、8%から2%上乘せになる予定ですね。この場合も更に値下げをされるということでいいのですかね。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

まだその辺までは話には至っておりません。当面、まずは4月の段階で消費税が上がるということを見据えて、先程申しましたように政治判断をいたしました。その翌年の消費税が10%になるというところの部分においてはまだ議題としては取り上げておりません。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

熊井照明君。

○1番 熊井 照明君

ただ今回26年の4月から3%上がって8%ですね。27年の10月は直ぐきますよね。そういうのを勘案して頂いて、今回判断して頂ければよかったなと思うのですが、ただ今回24円値下げをしています。値下げをした場合としない場合、まるまる8%にした場合と、今回24円上げるのと上げなかった場合、鞍手町の実質の一般会計からの支出というのは試算しているとは思いますが、分かれば教えて下さい。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

お答えいたします。

ごみの処理に関しましては、ごみ袋の生産費、不法投棄のごみ回収委託料、じん芥収集業務委託料と、宮若市外2町じん芥処理施設組合運営費負担金等で、平成24年度決算で約3億800万円。

収入としまして普通交付税歳入額9,700万、ごみ袋等の販売手数料が5,900万円等で、1億5,600万円ぐらいの収入になっています。差引1億5千万円ほどの一般財源を出しています。

8%に消費税が上がった分を据え置いた場合、支出において289万4千円程の増額。収入におきまして170万円程の減額になりまして、合わせて459万円程の増額となります。もし10%をそのまま据置としますと767万円程の増額となります。以上です。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

これも先程の話と同じで、消費税を先程課長はごみの収集とかいろいろなところにも納めていますよというふうに言いましたが、ごみ袋自体は生産だけなのです。後収集とかというのは別問題にもなってくるわけです、税金を投入しての話ですから。それだけで言えば消費税を転嫁して、その分は一般質問でも言いましたが納めていないわけです。消費税は納めていないでしょう。先程の消費税法60条第6項の規定に基づいて納めていませんというふうに言われていましたから。とすれば、これも転嫁しなければ先程質問が出ました8%から10%になった場合どうなるのかということも全然関係なくなってくるわけです。

ここは少し考え方が違うと言われればそうかも知れませんが、収集料金から外にもお金が掛かっていますと言われればそのとおりですが、しかしごみ袋の料金からすれば、1枚作るあたりに6円から10円の間ぐらいだと思いますが、今いくらですか分かれれば教えて下さい。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

平成25年度で契約いたしましたごみ袋、可燃物大6円67銭、小4円33銭、不燃ごみ袋大8円、不燃ごみ袋小5円、証紙2円30銭でございます。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

今課長が言われたように燃えるごみ袋の大きい方だけでも、作るのに原価は6円67銭しかかかっていないのです。それがごみ袋大は1枚84円でしょう、それを考えたらやはり、収集料金についてもそれにも満たないわけで、勿論税金で賄って行かないといけないということもありますので、ここはやはり宮若市、小竹町、鞍手町の3市町ともごみ袋は近隣に比べて高すぎるという見解ならば、せめてここは消費税を転嫁するべきではないというふうに思うのです。

値段は据え置くという、結局は今までと同じ8%掛ければ10枚で840円という形になるわけですから、据え置く、高すぎるということ言えば、その考え方については賛同しますが、これは新たに消費税を勘案すべではないと私は思います。先程と同じ質問になるのでどうかと思いますが、一応議案質疑ですのでお願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

課題として捉えさせて頂きますが、ただ先程課長が申しました大きな袋の燃えるごみ袋が6円67銭ですか、これはあくまでもごみの単体の製造であって、残り80円近くのお金というのは、その袋によってごみの処理料まで入っていますので、その辺があくまでもごみの袋代ということになっております。

消費税の件ですが、ただ一般の商店で例えばごみ袋を売った場合でも消費税を預かっています。この消費税は税対象で商店は国庫に消費税を払っているのです。そういう意味からすると消費税は掛けてもいいのではないかと考えております。以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

消費税を払っていると言いましたが払っていないですよ。今町長は払っていると言われま

したが。この分は８４０円まるまる町にごみ袋のお金として入って来ているわけですよ。そこだけ訂正して貰えばいいと思います。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

お答えいたします。

宇田川議員の言うとおり８４０円で売った分は８４０円町に入って来ています。以上です。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第９２号は民生産業委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。よって議案第９２号は民生産業委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第７ 議案第９３号 鞍手町課室設置条例等の一部を改正する条例を議題とします。

質疑はありませんか。

岡崎邦博君。

○１２番 岡崎 邦博君

今回課が１つ増えて、後分掌事務についても大きく変わっているのですが、ちょっと３回の質問ではなかなか質問しづらいところがあるのですが、３回ということに拘るのであれば幾つかを１つに纏めて質問したいと思いますと思いますがよろしいでしょうか。

○議長 川野 高實君

１つずつ３回。

○１２番 岡崎 邦博君

分かりました。

例えば分掌事務で総務課のところでは、今までは庁舎の管理に関することとか、電子計算機によるシステムの維持管理に関することということが分掌事務の中に入っていましたが、今回はこれがなくなっています。ここに関することについては、どの分掌事務の中に含まれるようになるのでしょうか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

今回の改正に当たりまして、この条例の中に定めています事務分掌と鞍手町事務分掌規則の中に定めている事務分掌があるわけですが、本来条例の中で事務の柱になるものを定めて、

規則の中で、その枝葉の部分を決めていくべきものが、これまでのいろいろの改正が積み重なって来た中で、ちょっとその辺がごちゃごちゃと混在したような状態になっていました。

それを今回整理をすることにいたしました。電算関係のものとかは情報施策の中に入りますし、例えば職員の関係等と言いますと、職員の人事給与及び福利厚生に関することとか、職員の人材育成に関することとかというふうなことが条例で謳ってありますが、実際これは全て職員に関することなので職員に関することというふうに括って、その中身の給与のことであるとか人材育成とかという部分については規則の中に今度きちっと整理をして行くという考えです。

○ 1 2 番 岡崎 邦博君

庁舎の管理はどこに含まれるのですか。

○ 総務課長 白石 秀美君

庁舎の関係というのは財産の関係に括っています。町有財産に関することです。

○ 議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○ 1 2 番 岡崎 邦博君

例えば電子計算機によるシステムの維持管理ということを経営施策に関することの中のことなののですが、これは殆どリースだったりしますね。ソフトはリースだったりとか電算機も全てリースだったりしています。そういうのを情報施策ということの中に含まれていいのかどうかというのが1つと、その情報施策に関することという内容自体も分かりにくいのですが、これは規則の中ではどういうものがこの中に入るのですか。どういうものかちょっと分かりづらいのですが。

○ 議長 川野 高實君

総務課長。

○ 総務課長 白石 秀美君

なかなかこの新旧対照表からは、どんなふうに括って新しいものになっているかというのは分かりにくいと思います。それで旧のどれとどれが合わさって新のこれになっているという表を人事班の方で作っていますので、これを資料として後ほど提出させて頂きたいと思いますがよろしいでしょうか。

○ 1 2 番 岡崎 邦博君

出来れば今貰った方が。

○ 議長 川野 高實君

時間が掛かりますか。

ここでしばらく休憩します。

休憩 1 3 時 5 4 分

再開 1 4 時 1 0 分

○ 議長 川野 高實君

会議を再開します。

初めに総務課長に答弁をお願いします。

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

只今お手元にお配りしております資料が今回の課室設置条例の一部改正にかかる事務分掌の部分の見直しになります。

まず左側の方に旧の事務分掌を載せております。真ん中の欄が変更理由、そして右側に新しい事務分掌という形で、中段の部分を見て頂ければどういったものをどういうふうに整理したかというふうに分かるようにしております。

一方の小さい字である分は事務分掌規則の方です。今度新しく条例の方の事務分掌を整理し直した中で各課毎に整理をしております。よろしくお願いいたします。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

資料ありがとうございました。この資料を見た中でも先程の情報施策に関することというところで、以前の事務分掌では情報施策の企画及び総合調整に関することということが総務の方にあったわけですが、その企画及び総合調整に関することというのは移ってもいいとは思いますが、情報施策また電子計算機によるシステムの維持管理に関することというのは、今日貰った変更理由の中でも番号制度の導入等各課に跨がる業務の発生があるというようなことであれば、寧ろやはり総務課に置いている方がスムーズに行くのではないかという気がするのですがいかがでしょうか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

いろいろと内部検討をしました結果、情報関係の部分については政策推進課の方に置く方がいいという結論に至りました。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

政策推進課と地域振興課の2つに分けた大きな理由は何ですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

今現在企画財政課の方で持っています事務のボリュームが非常に大きくなりつつあります。それで政策推進課につきましては、財務、秘書業務、情報施策等の業務を柱とする重要施策の調整推進の役割を担う課として位置づけようと。

更に地域振興課については、商工、観光、企業誘致、都市計画、開発事業等の業務を柱として、地域振興の役割を担う課として位置づけようということで2つに分割したということになります。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

業務が大きくなったからということで2つに分けたということですが、そこは職員の配置によって、班を例えば3つにするとか、そういう考えもあったのではないかなと、新たに課を作らなくても対応できたのではないかなというふうに思うのですが、どうしても課を必要とした大きな理由は。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

もう一つ班を作るというような形で行きますと、課の中がかなり肥大をして、課長の負担が非常に大きくなります。そういった部分も考えて、これを分けても一つ一つの課長の業務というのはかなり大きなものになると思いますので、2つに分けた方がいいというふうに考えています。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

では政策推進課の中に秘書に関することというのが分掌事務として上がっているのですが、これは誰の秘書で、どういう内容の業務を担当するのかの中身を教えて下さい。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

秘書業務はいま総務課の方に置いていますが、町長の秘書という業務がこちらに移行するということです。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

いま女性の職員が1人付いているわけですが、その職員をわざわざ政策推進課の方に移す理由は何ですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

重要施策に係る部分で、町長がいろいろと今後出張等で動かれたりとか、会議に出席され

たりとかという部分でも、随行していろいろと施策関係の部分を補助して行く、そういう職員を置きたいということで、秘書関係部分は重要施策の中に位置づけています。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

これについては最後にします。別に新たに、今職員がいる外に新しい職員を置くということになるのですか。例えばそうだとすれば、そこに課長も班長も、こうやって新たに課も2つ作るわけですし、そういった施策に関する、それこそその課の課長さん、班長さんはエキスパートでもあるわけですから、わざわざそこに秘書を別に置く必要があるのか、ちょっと疑問に思うのですが。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

新たに、そのために人員をそこに配置するというだけでなく、課の中で誰かが対応するというふうに考えております。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

保険健康課と福祉人権課のことでお尋ねしたいのですが、これは一般質問の中でも課室の分掌でもう一度考え直した方がいいのではないかとということで質問をさせて頂いたところです。特に介護予防について、今までは健康増進班の中で介護予防は行われていたわけですが、今回の改正で、これを見ていないので分からないのですが、どこの所管に入るのでしょうか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

ご意見を頂いておりました件につきましては、保険健康課と福祉人権課の担当職員を寄せまして協議を行いました。その結果、今後の介護保険制度の見直しによって、平成27年度以降に、段階的に市町村にまた新たな地域支援事業が移されるという状況がありますので、今ここで扱うよりも、その中身がもう少し見えた時に全体像としてもう一度見直した方がいいのではないかと結論に達しております。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

もう一つ、福祉人権課の中で、今までは高齢者福祉に関することということで、はっきりと高齢者福祉に対する分掌事務が謳われていましたが、今回の改正でどうも社会福祉に関することということの中に入るのかなと思うのですが、これはどうなのですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

社会福祉に関すること、これまでの社会福祉に関すること、社会保障に関すること、福祉事業に関することと、高齢者福祉に関すること、これを統合した形で条例上は社会福祉に関することとしています。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

この中で高齢者福祉というところがなくなるのですが、今後更に高齢化をしていくというふうに予測されている町として、やはりこういったものを分掌事務の中に上げる必要があるのではないかなと。寧ろやはり、それを上げることで高齢者福祉に対する姿勢をはっきりと示した方がいいのではないかなと思います、その点についてはいかがですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

条例の中では社会福祉に関することと括っていますが、実際枝葉となる部分については規則の中で細かく定めております。高齢者の保健福祉計画推進に関することとか、敬老祝い金に関すること等、かなり細かく分けて記載をしています。そういう形で、まず条例の中では柱の部分として出して、その枝葉を細かく規則で整理していくということで、ちょっと見て頂きたいと思います。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

最後になりますが、いま柱として上げているというふうに言われましたから、寧ろやはり柱の1つとして高齢者福祉というのも私は上げる方が、先程も言いましたように、町の姿勢としてもはっきりさせることが出来るのではないかなというふうに思いますが、重ねてお尋ねします。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

括り方については内部的にも議論あったわけですが、最終的にこの部分ではこういうふうな括り方でいいという結論に達しました。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

改めて資料を出してもらって、これだけの任務といろいろやるのがたくさんあるのだなと認識させられましたが、今度課室を一変してやった中で、先程の質問とも関連があるのですが、縦割りですね、どこに行ってもいいか分からない。

これ自体は来年の4月1日からということなのですが、それからしろ、職員も今から戸惑うと思います。職員もそうですが、町民がこのことに関しては何処に行ったらいいのだろうかという案内とかというものは、しっかりと直ぐ対応できるようなことをしていかないといけないかというふうに思いますが、その点についてお願いいたします。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

現在も住民の方が窓口に来られて手続きとか、届け出をされるとかという部分については、何処の課に行ってもという手続きが出来ますという一覧表を作って、窓口のところに置いてあります。それを使って窓口の職員が、この手続きでしたらここでこういうふうに出ますという説明をさせて頂いています。

今回、事務分掌を見直せば、当然それも見直して更に使いやすいものになるようには努力をして行きたいと思います。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

もう一つ、前からのグループ制の考え方なのですが、これだけまた課が1つ増えるわけですが、グループでいろいろなところに、誰もが対応出来るようにという考え方でのグループ制だったのですが、それはそれとしてあってもいいのですが、1つ、前に町長にも少しお話をしたことがあると思いますが、対外的なもので課長というのはある程度一定の皆さんが認識されますが、その下といいますか、補佐が班長という形になったら、庁舎内では分かりますが、対外的に班長って何ですかという形になって来ると思います。その点については見直しとか、何か考えがあるのでしょうか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

その件についても係長を設けるかどうかというのを今回の議論の中にもありました。いろいろと組合とも協議していく中で、また各課の今のグループ制で取り組んでいる業務の状況もそれぞれヒアリングを行いまして纏めた結果、やはり今の体制がいいと。グループ制についていろいろ上手く行っていないという不満もあったりしたのですが、実際にヒアリングをして見ると、このグループ制でやっていかないと、これだから回っているという課もあったりして、やはりあまり上手く行っていないかなという部分も気にしていたのですが、結構上

手く行っているところもあるように思っております。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

上手く行っているところもあるでしょうが、なかなか先程も言いましたように対外的な面で、変な言い方をしたら上司が来ていないとか、担当者が来ているような雰囲気を取られないかなという思いがあるわけです。ですからそこそこの、特に県に陳情に行ったりとか、交渉に行ったりとかする場合に、課長じゃなくても次の班長が行く場合に、そこは課によってはちょっとグループ制でない方がいいとかというところもあるのではないかと思います。だからそこは画一的に全部グループ制を引いていくとかでなくて、ここはこういうふうに行こうとかということも考えて行った方がいいのではないかと思います、その点についてお尋ねします。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

言われますようにグループ制についても、その事務の内容によって上手く合うところと、なかなか馴染みにくいところがありますので、その辺はいろいろと考えながらやって行きたいと思います。職名につきましては、また協議してみたいと思います。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

今この資料を見させて頂いているのですが、その政策推進班のところに政策秘書担当ということで、約27項目が上がっていますね。先程の答弁ですと別に秘書を置くわけでもない、いろいろ変わるというような答弁でしたが、こういうふうに政策秘書担当の職員を置くということではないのですか。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

当然その課に配属をされた職員の中で、そういった業務を担う者も出て来るというふうには思います。ただそれだけを専属でやるということになるのかどうかというのはまだ、もう少し事務のやり方を考えて行かなければならないと思います。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

これは政策推進課の中に属するわけですがけれども、政策秘書担当という名称が班の中に、

非常に分かりにくいというか、例えば財政担当とか、情報政策担当とかというならどうい
うものか分かるのですが、政策秘書担当とは一体何をどういうふうにするのかというのが、こ
ういう細かなものがあれば、こういうこと、こういうことというのが分かるのですが、ちょ
っと名称でこういうふうな形で担当の職員を置くということになるのでしょうか、ちょっと
そぐわない感じがするのですが。

○議長 川野 高實君

総務課長。

○総務課長 白石 秀美君

今町長室に居るような秘書ということとはちょっと意味合いが違います。表の右側に掲げ
ておりますような重要施策、主要事業等について関わって行く職員ということになります。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 9 3 号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 9 3 号は総務文教委員会に付託することに決定しま
した。

次に、日程第 8 議案第 9 4 号 平成 2 5 年度鞍手町一般会計補正予算（第 5 号）を議題
とします。

まず歳出より質疑をお受けします。

事項別明細書の 1 7 頁をお開き下さい。

1 款 議会費及び 2 款 総務費について 1 7 頁から 1 8 頁まで質疑はありませんか。

岡崎邦博君。

○1 2 番 岡崎 邦博君

1 7 頁のプロ野球の作成業務委託料なのですが、残念ながら残ることは出来ませんでした
が、これを提案された際に半分は返って来るといような話でしたが、半分以上支出されて
いると思いますけれど、その他にどのような支出があったのですか。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

提案書の中に、新たに航空写真を追加いたしましたので、その分が追加というふうになっ
ております。以上です。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

次に進みます。

3 款 民生費及び 4 款 衛生費について 18 頁から 20 頁まで質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

18 頁の民生費の総合福祉センターの施設費の工事費 3,500 万円。過疎対策事業債の枠がいっぱいになって、その減額に伴うもので給湯システム改修事業費が出来なくなったということなのですが、これは今後どういうふうに考えているのか。

来年度にして行こうとするのか、それで間に合うのかどうかということも含めて、支障は来さないのかについてお尋ねします。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

この 3,600 万円につきましては、第一次要望の段階で全国からの過疎債の要望が多くなりまして、25 年度につきましては 22.05% のカットが一次の段階できております。

いま二次の段階で、最終的には一次のカットの段階で当初予算から申しますと 16 億 8,870 万円に対しまして 22% ですから、約 3 億 2 千万円程度のカットを求められたのですが、最終的には二次で要望しましたけれども、やはり 12.6% はカットせざるを得ないという状況になっております。

額としましては 2 億 1,400 万円ぐらいをカットしなければならないような状態です。その中でこの優先度を考えまして、総合福祉センターの給湯システムにつきましては、翌年度への先送りという形に考えさせて頂いております。

これにつきましても、来年度また要望しても過疎債の枠がございますので、その年度で判断をさせて頂くということもあると思います。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11 番 宇田川 亮君

それで給湯システムは来年度また要望して、通らなかつたら厳しいかなということなのでしょうが、今改修しなくても、まだ支障は来していないということなのでしょう。それとも来年度には必ずしとかなないとちょっとまずいとか、その場合どうするのかということについてお尋ねします。

○議長 川野 高實君

副町長。

○副町長 本松 吉憲君

お答えいたします。

福祉センターの給湯システムの導入につきましては、現在、維持管理費の経費節減を図る

ため導入したいという目的で上げさせて頂いております。

いま企画財政課長が申しましたように優先順位をつけさせて貰っていますが、いわゆる中学校の統合に伴う学校関係の施設、道路、こういったものを最優先ということで取り上げていっておりますので、来年度も毎年要望を出しながら満額付けば実施したいと、その時点で優先順位を見ながら判断していきたいというふうに考えています。以上です。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

次に進みます。

5款 労働費から8款 土木費について、20頁から23頁まで質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

21頁の労働費の緊急雇用創出事業の委託料ですが、この中身について教えて下さい。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

これは緊急雇用創出事業臨時特例基金事業におきまして、9月補正で企業支援型地域雇用創出事業に対しまして予算を計上させて頂いております。

最初補正した段階では、県からの補助金につきましては1,240万円の補助だったのですが、事業費全体としましては要望額が1,754万4千円ほどの事業費の要望が 있습니다。事業費の内容としましては、まず1つが株式会社夢工房と、もう一つはNPO法人南陵塾からそれぞれ要望があって申請がありまして、この2件を採択しております。

株式会社夢工房くらてにつきましては、現在は若摘巨峰のワインやコンフィチュールがございますが、これに続く新たな商品開発に向けての事業ということで取り組まれています。

事業費としましては、1,245万円程がこれに充てられる予定です。その内3名の新規職員を採用予定ということで、この人件費としまして約797万円が充てられるという予定になっています。

そしてもう一つのNPO法人南陵塾につきましては、これは今までの南陵太鼓を通じた青少年の健全育成や、地域の文化財を活用した地域おこしに取り組んで頂いておりますけれども、こちらにつきましても新たな特産品の開発等を企画するということで、事業費としましては約509万円。その内に新たに商品開発の部分のための新たな職員として1名分の人件費として約259万円が充てられるということになっています。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

分かりました。

それから同じ 21 頁の農林水産費、農地集積協力金 80 万円なのですが、これはよく分からないので教えてください。

○議長 川野 高實君

農政環境課長。

○農政環境課長 篠原 哲哉君

お答えいたします。

個別所得保障経営安定化推進事業というのがあります。その中で土地利用型農業から経営転換、相続、高齢によるリタイヤ等を契機に、農地利用集積円滑団体を通じて地域農業マスタープランに位置づけられた、地域の中心となる経営体に農地を集積することが確実に認められる場合や、中心となる経営体の農地を減反化させようとする場合に、市町村を通じて、それに協力する者に対して農地集積協力金が交付されます。0.5ヘクタール以下で30万円、0.5から2ヘクタール以下で50万円、2ヘクタール以上で70万円です。今回の補正は2件の農家が高齢を理由にリタイヤされることから補正を行っています。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

22頁の道路橋梁費、これも先程の優先順位からして3,500万円減額になっていますが、その中身を教えてください。

○議長 川野 高實君

建設課長。

○建設課長 森 茂樹君

お答えいたします。

当初予算では舗装、補修とか、通学路の整備、道路改良等の一般工事費、緊急道路補修工事費及び除草工事費で1億4,287万5千円を計上させて頂いておりました。先程財政課長が申しましたように、過疎債が思うように付かなかったということで、3路線につきまして今回減額をしています。

1つは通学路の整備でございますが、これにつきましては現在下水道工事を行っておりますので、来年度に行うように予定しております。

後2路線につきましては、道路改良工事でございますが、これにつきましては、来年度は通学路の整備を優先して行いたいと考えています。以上でございます。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

次に進みます。

9款 消防費から12款 公債費について23頁から25頁まで質疑はありませんか。

これで歳出を終わります。

次に、歳入に入ります。

14頁をお開き下さい。

一括して質疑をお受けします。

14頁から16頁まで質疑はありませんか。

これで歳入を終わります。

それでは歳入歳出全般について質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

28頁に新鞍手中学校の太陽光発電施設の使用料、それから売電の業務委託も付いていますね。この分け方というか、例えば新中学校が出来て屋上に太陽光発電が出来て、1つは売電目的、1つは校舎とかそういうものに使うということなのですが、それは別々でやっていくということですか。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

新中学校の屋上につきましては、現在自家消費用の太陽光発電としまして50キロワットが計画されておりますけれども、それ以外の空きスペースを活用いたしまして、約200キロワットの発電能力のある太陽光発電施設を20年間のリース契約に基づいて売電事業を行うという事業でございます。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

1つは新中学校で50キロワットと言われましたが、例えば余る場合がありますね。その場合は電気あれが返って来るとか、それとは全然、自家発電用で例えば蓄電してとかという形にして行くのでしょうか。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

現在計画されております中学校の自家消費用の50キロワットにつきましては、本来その校舎で活用する部分として設置しておりますので。但し余剰電力が出た場合は売電が可能というふうになっています。

もう一つの200キロワットは、元々売電目的につきましては、これは国の補助金とか県の補助金若しくは過疎債を充てることは出来ませんので、この部分については売電目的で売っていくという形になります。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

電気を貯めておくとかということではなくて、余った分は売るわけですね。そうしないと、その日、その日で、その時間帯で発電された能力と使っている能力の差が出て来るわけですから、その売電した分は、これとは別の枠で一般会計の方に入って来るということではないのでしょうか。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

売電目的の方につきましては、一般会計の方に売電部分が入ってくるという形になっています。この事業につきましては、約 20 年間で 1 億 2 千万ぐらいのリース料になっております。年間の売電収入につきましては約 800 万円程度を想定しております。その 800 万円の中からリース料を支払い、それと後もう 1 つメンテナンス料、それから 20 年後の撤去費用の部分の積立分も含めまして、その残りの部分について鞍手町と管理会社の中で案分するというような事業になっています。それと一応 20 年間の収入の見込みとしましては、約 2 千万円から 2, 100 円程度を見込んでいる状況でございます。以上です。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 94 号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 94 号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 9 議案第 95 号 平成 25 年度鞍手町国民健康保険事業特別会計補正予算(第 3 号)を議題とします。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 95 号は民生産業委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 95 号は民生産業委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 10 議案第 96 号 平成 25 年度鞍手町流域関連公共下水道事業特別会計補正予算(第 3 号)を議題とします。

質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

8 頁の工事費、国庫補助金の減額に伴ってということなのですが、実際に工事が遅れてくる、どこかの工事をする予定だったところが来年度先送りという形になってきたのでしょうか。

○議長 川野 高實君

上下水道課長。

○上下水道課長 原 敏勝君

お答えいたします。

毎年補助金の交付額の内示を受けた時点で優先順位を付けて、頻度の高いところから整備を行っております。

早急でないところについては、工事金が足りない分については後回しになるような傾向になりますが、基本的には優先順位を付けて、そこから整備をするようにしております。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

ということは、今回の工事費 3, 2 0 0 万円ほど減額というのは、どこどこ予定はあったにしろ入札したとかではない。場所は確定していたところが、ここは来年度よという形ではないのですね。

○議長 川野 高實君

上下水道課長。

○上下水道課長 原 敏勝君

今年度の優先順位としましては、古門と学校関係の道路だと、中本町、上新橋の浸水対策に向けての整備を今年で終わることに計画していましたので、今回補助金が付かなかった分については山ヶ崎区、西区、唐ヶ崎区を予定していました分が一部、若干遅れたようになっています。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 9 6 号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 9 6 号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 1 1 議案第 9 7 号 平成 2 5 年度鞍手町かんがい施設維持管理運営費特別会計補正予算(第 1 号)を議題とします。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 9 7 号は民生産業委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 9 7 号は民生産業委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 1 2 議案第 9 8 号 平成 2 5 年度鞍手町泉水団地改良住宅移設事業特別会計補正予算(第 2 号)を議題とします。

質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

今回はコンクリート製品の生産が間に合わないということで、来年度に持ち越しということなのですが、とすればその分転居というか、泉水団地に住んでいた方がそちらに移るのも遅れてくるという形になってくるのですか。

○議長 川野 高實君

建設課長。

○建設課長 森 茂樹君

当初の計画では 2 6 年度の 1 2 月末までに、現在お住まいの住宅を解体して更地にして、J O G M E C の方に渡すということで計画しておりましたのですが、先程町議が言われたように、大型のブロックが需要に対して生産の方が間に合っていない状況でございまして、それで造成の方が 3 月末ぐらいまで掛かるものでございますので、建築の方も若干 2 6 年度に入り込みますので、入居に関しては若干 2 ヶ月程遅れるかなとは予定しております。

以上でございます。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

その入居の時期が遅れるということに関しての保障をもっとしないといけないとかということはないのですね。あっても N E D O の関係になってくるのですね。

○議長 川野 高實君

建設課長。

○建設課長 森 茂樹君

遅れることに対しての保障はございません。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 9 8 号は民生産業委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 98 号は民生産業委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 13 議案第 99 号 平成 25 年度地方独立行政法人くらて病院貸付金特別会計補正予算(第 1 号)を議題とします。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 99 号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 99 号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に、日程第 14 議案第 100 号 平成 25 年度鞍手町水道事業会計補正予算(第 2 号)を議題とします。

質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第 100 号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第 100 号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に進みます。

日程第 15 議案第 101 号から日程第 17 議案第 103 号までの 3 件を一括して議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長 徳島 眞次君

追加議案の提案説明を行います前に、議案提出につきましてお詫びを申し上げます。

議案 103 号につきましては、12 月 6 日に配布させていただきましたが、内容に誤りがあり、12 月 9 日に議案 103 号の差し替えを行わせていただいております。

今後、このようなことがないよう細心の注意を払って議案を作成し提出いたします。

大変申し訳ございませんでした。

それでは、追加議案の提案説明をさせていただきます。

日程第 15 議案第 101 号から日程第 17 議案第 103 号までの 3 件について、一括して提案説明を申し上げます。

日程第 15 議案第 101 号は、財産の処分であります。

この財産の処分は、企業誘致を目的として整備した鞍手町中山西区用地 1 万 6,746.67 ㎡のうち、A 用地 8,373.36 ㎡につきまして、一般貨物自動車運送事業を経営されている、遠賀ダイキュー運輸株式会社より当該用地進出のため土地購入の申し出があり、同社の経営状況や今後の企業活動などを審査した結果、売却は適当と判断したものであります。

12 月 2 日に、同社と売買仮契約を締結しましたので、議会の議決を求めるものであります。

なお、同社の概況につきましては、議案に添付しております資料をご参照してください。

次に、日程第 16 議案第 102 号は、平成 25 年度鞍手町中山西区用地造成事業特別会計補正予算第 2 号であります。

本補正予算は、鞍手町中山西区用地の A 用地を 4,823 万円で遠賀ダイキュー運輸株式会社と売買仮契約を締結したことにより、歳入では、予算科目確保分の 1 千円を差し引いた 4,822 万 9 千円を土地売払収入として追加補正するものであります。

また、歳出では、今回の財産の処分は、9 月定例議会で追加補正いたしました分譲促進業務委託の対象とはならないため、一般会計から繰り入れることとしていた分譲促進業務委託料予算 337 万 7 千円のうち、A 用地分に係る分譲促進業務委託料相当額 168 万 9 千円は減額するとともに、土地売払収入分は一般会計へ繰り出すこととして、歳入歳出を調整しております。

これにより、歳入歳出それぞれ 4,654 万円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ 5,006 万 3 千円としております。

次に、日程第 17 議案第 103 号は、平成 25 年度鞍手町一般会計補正予算第 6 号であります。

本補正予算は、歳入では、鞍手町中山西区用地の A 用地の土地売払収入 4,822 万 9 千円を、中山西区用地造成事業特別会計からの繰入金として追加補正し、A 用地分に係る分譲促進業務委託料相当額 168 万 9 千円を減額した上で、財政調整基金からの繰入金を減額しております。

また、歳出では、A 用地分の分譲促進業務委託料分を減額しております。

これにより、歳入歳出それぞれ 168 万 9 千円を減額し、予算総額を歳入歳出それぞれ 80 億 9,934 万 9 千円としております。

以上が、日程第 15 議案第 101 号から日程第 17 議案第 103 号までの 3 件の提案説明であります。

ご審議の上、ご協賛のほど、よろしくお願いいたします。

○議長 川野 高實君

これから質疑を行います。

議案第 101 号について質疑はありませんか。

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

西区用地の半分が売れたということについては大変よかったなと思います。

合わせて9月定例会で、この分譲促進業務委託のお金も使わなくてよかったということも、よかったのではないかと思います。土地の値段についてなのですが、約8, 373㎡で4, 823万円ということなのですが、単純に計算して平米5, 700円くらい、坪にすると1万7千円くらいですね。これ自体が妥当なのかどうかをお尋ねしたいと思います。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

この単価につきましては、当初販売のパンフレットにおきましては平米当たり9, 600円とさせて頂いていました。

今回、この単価につきましては、この9, 600円の60%で平米当たり単価5, 760円という形で算出しています。この60%に至った経緯につきましては、近隣の企業用地、特に近隣市町、それから筑豊地区の単価をみました時に、直鞍地区では小竹町さんの工業用地につきましては5, 721円から6, 112円の範囲で推移しているということ。

それから川崎町の東田原用地で5, 350円、桂川町の天道用地等で6, 500円、若干高いのですが、県の企業用地のパンフレットよりは、各自治体は値引きを行っているという状況があります。

そういう近隣の市町村との競争性も加味いたしまして、この単価にしたというのが1つの理由と、西区用地につきましては、若干地盤に不安があるところがございます。それにつきましても当然企業誘致をする上で、企業さんが新たな構造物を建てる場合におきまして、やはりその構造物を建てる費用につきましては、予想以上に負担が掛かるというところで、進出に二の足を踏まれるというところがございます。そういうところも考慮いたしまして今回この60%の5, 760円という単価にさせて頂いております。以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

近隣のと言われましたが、小竹町は近隣は近隣ですが、条件として鞍手町はインターもできて、特にダイキュー運輸さんですか、インターもできて、架橋がどうなるか分かりませんが、交通網としては、条件としては今言われた近隣の市町村に比べたら大分いいというふうに思うわけです。

建物の関係からして、逃したらいけないという気持ちもあったのですが、それでも6割、4割引というかというところで、一辺に全部売れたわけではなくて今回は半分ですから、その値段がもう半分売るときに、それは既存の価格という形にもなりはしないかというふうに思うわけですが、その点についてはどうでしょうか。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

お答えいたします。

まず残りのB用地につきましても、今現在2社と協議を進めさせて頂いているところでございます。具体的に名称は差し控えさせていただきますが。概ね今の2社で埋まる可能性も出て来ておりますので、単価につきましても、遠賀ダイキューさんにつきましてはA用地全部を購入して頂いておるといふところもありますので、この60%でしてはいますが、今交渉しています2社につきましては、場合によっては分割ということも想定されます。

その場合につきましては、やはりスケールメリットというところも遠賀ダイキューさんには与えてもいいのかと、もう一つの2社につきましては必ずしも60%で売買をするというところではございません。今その点につきましては、交渉を行っているところでございます。

以上です。

○議長 川野 高實君

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

もう一つだけお尋ねします。先程の分譲促進業務委託、いま言われた2社につきましては、どこか仲介人が入っているということでしょうか。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

この2社につきましても、まず1社につきましては、これまで町長が企業誘致の活動をされている中で、ある知人の方からご紹介を頂いたというところではございますので、不動産とか、宅建を持っている方の紹介ではございませんので該当いたしません。

もう1社につきましても、これは直接鞍手町のホームページをご覧になってコンタクトを取られた企業さんですので、もし成立すればどちらも対象にはならないという形になっています。以上です。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

今の議員の質問にも関係するのですが、ここも一応不動産鑑定はしていると思います。その不動産鑑定の評価額は、この土地については幾らだったのですか。

○議長 川野 高實君

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

すみません、細かい数字は持っていませんが、一応仮評価という形ですけれども1㎡当たり5千円弱だったと思います。

すみません、今のは課税標準額です。

○議長 川野 高實君

ここでしばらく休憩します。

休憩 15時06分

再開 15時07分

○議長 川野 高實君

会議を再開します。

企画財政課長。

○企画財政課長 三戸 公則君

すみません、先程の答弁を訂正させていただきます。

不動産鑑定価格につきましては、意見価格としまして9,600円となっております。

以上です。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

おそらく鑑定の評価額で表示をしていたのだらうと思うのです。それから比べて40%も引いて売却するということは、それだけの鞍手町の資産価値を減耗させて売ることになるわけですから。言い換えればこれは鞍手町に対して損害を与えるということに繋がらないですか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

おっしゃることはよく分かるのですが、たまたまここは地質調査をしましたら地盤がもの凄く悪いみたいで、実際に建物を建てられるに当たって、杭を数百本打たなくてはならないということで、そこで数千万円お金が掛かるということも聞いております。

それから加味しますと、その分の減額分と、そういう関係で計算を出させていただきました。以上でございます。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

そういった地盤の関係があるとすれば、鑑定の中でそういった評価も含まれるのではないかなというふうに思うのです。

近隣の直ぐ川を挟んで宅地辺りでは、やはり坪辺り5万円以上、6万前後ぐらいまで大体評価としてはあります。直ぐ近くの弥生団地は7万円ぐらいです。そういうことから考えて

も、大体この評価額は地盤が悪いとしても妥当な評価が出ていたのではないかなというふうに思います。

例えば、企業誘致ということで、インターネットを調べてみますと、鞍手町には外に用地が2つ程出ています。その1つに丸ヶ内用地というのがあります。これについては一部が山林です。しかしそれでも単価としては1㎡当たりが5,600円で企業誘致をしようというふうに鞍手町は出ています。

もう一つDC用地、これも民間の用地ですが、これについては造成済みということで単価が坪当たり4万5千円ということで出ているのです。

それからしましても、極端に安い用地を極端に安い値段で町有地を売却するということになります。そうしますと、今度は民有地を売却するに際しても、なかなかあそこの町有地はこんなに安い値段で、なぜ民有地こんなに、不便なところであったり、条件としても整っていないにも係わらず高いのかということになるわけで、これは町として民有地を売りにくくしてしまうという危険性があると思うのですが、そのことについてはどう思いますか。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

岡崎議員がおっしゃることは本当によく分かります。ただ先程も申しましたように、これはかなり地盤が悪うございます。岩盤に当たるまでが10m近く、若しくは20m、ずっと斜めに岩盤の位置が下がって行っているのです。ですからそれに対しまして20mの杭といいましたらかなりの基礎部分に打っていかなくてはいけないということで、相当なお金が掛かるとこちらでも試算をいたしております。

それを鑑みますと、それぐらいのことは妥当ではないかと、そのように計算をさせていただきました。以上でございます。

○議長 川野 高實君

岡崎邦博君。

○12番 岡崎 邦博君

町長のおっしゃることも分かるのですが、周辺の地価と比べても極端に安い。先程も言いましたように、表示をしていた値段から比べれば3,200万円も安くなるのです。だからこれから先、いろいろ企業誘致をしたいということで、今上がった2件の用地以外にも、今後鞍手町が開発するか、民間が開発するかは別にして開発して行くと思いますが、これがどうしても1つの基準になって来るのです。

先程近隣と比べてというようなこともありましたから、当然今後も近隣と比べてというようなことで、これ以外の用地についてもそういった基準を適用されれば、どんどん鞍手の地価というのは安くなりますし、資産価値としても安くなっていくのではないかなという危惧します。

だから本当に売れたということは、先程の議員も言われましたように素晴らしいことでし

たし、いいことだなというふうに思いましたが、この価格自体が私は妥当性に欠けるのではないかなというふうに危惧をしていますが、再度答弁をお願いいたします。

○議長 川野 高實君

町長。

○町長 徳島 眞次君

そうですね、なかなかこれぐらいの規模の土地だと、大企業では坪数的にはまず不可能なんです。となりますとやはり中小若しくは小企業ぐらいの坪数しかございません。これに至りましては、私の考えはやはり早く来て頂いて、そこで雇用が生まれて、そしてまた3年間の減免が終わったら次は固定資産税が入ってまいります。そういったことを考えますと、早めに来て頂いて雇用促進を生んで、そして減免が終わったら次は税収が上がるという措置を取りましたら、鶏が先か卵が先かになりますけれども、私の判断としましてはこのような判断をさせて頂きました。以上でございます。

○議長 川野 高實君

他に質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第101号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第101号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に、議案第102号について質疑はありませんか。

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第102号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって議案第102号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

次に、議案第103号について、まず歳出より質疑をお受けいたします。

事項別明細書の8頁をお開き下さい。

7款 商工費について質疑はありませんか。

これで歳出を終わります。

次に、歳入に入ります。

7頁をお開き下さい。

18款 繰入金について質疑はありませんか。

これで歳入を終わります。

それでは歳入歳出全般について質疑はありませんか。

これで質疑を終わります。

只今議題となっています議案第１０３号は総務文教委員会に付託したいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。よって議案第１０３号は総務文教委員会に付託することに決定しました。

この際休会についてお諮りします。

明日１２日から１７日までの６日間は委員会審査のため休会としたいと思います。

ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。よって明日１２日から１７日までの６日間は委員会審査のため休会とします。

以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれをもって散会します。

散会　１５時１６分

平成25年鞍手町議会第9回定例会会議録（第4号）						
	平成25年 12月18日					
招集場所	鞍手町役場議事堂					
開閉会日時 及び宣告	開 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月18日 午後1時00分				川野高實	
	閉 会 開 議				議 長	
	平成25年 12月18日 午後1時32分				川野高實	
出席及び 欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠 の別	議席 番号	氏 名	出欠 の別
	1	熊井照明	出 欠	11	宇田川 亮	出 欠
	2	須山 由紀生	出 欠	12	岡崎 邦博	出 欠
	3	星 正彦	出 欠	13	栗田 幸則	出 欠
	4	一	出 欠			
	5	田中 二三輝	出 欠			
	6	原 哲也	出 欠			
	7	川野高實	出 欠			
	8	須藤 敏夫	出 欠			
	9	久保田正之	出 欠			
出席 12人 欠席 0人 欠員 1人	10	武谷 保正	出 欠			
会議録署名 議員	5	田中 二三輝		6	原 哲也	

職 出	務 席	議 会 事 務 局 長	渡 辺 智 文	出 矢	議 会 事 務 局 長 補 佐	武 谷 朋 視	出 矢
地 方 自 治 法 第 1 2 1 条 に よ り 説 明 出 席 者 の 職 氏 名	町 長	徳 島 眞 次	出 矢	会 計 課 長	久 保 田 隆 一	出 矢	
	副 町 長	本 松 吉 憲	出 矢	建 設 課 長	森 茂 樹	出 矢	
	教 育 長	水 摩 幸 隆	出 矢	企 画 財 政 課 長	三 戸 公 則	出 矢	
	総 務 課 長	白 石 秀 美	出 矢	上 下 水 道 課 長	原 敏 勝	出 矢	
	福 祉 人 権 課 長	鯨 坂 健 二	出 矢	教 育 課 長	筒 井 英 和	出 矢	
	税 務 住 民 課 長	藤 原 光 徳	出 矢	保 険 健 康 課 長	長 友 浩 一	出 矢	
	農 政 環 境 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	篠 原 哲 哉	出 矢				
議 事 日 程		別 紙 の と お り					
付 議 事 件		別 紙 の と お り					
会 議 経 過		別 紙 の と お り					

平成25年第9回鞍手町議会定例会議事日程

12月18日 午後1時開議

第4号

- 日程第1 議案第87号 鞍手町督促手数料及び延滞金徴収条例
(民生産業委員長報告)
- 日程第2 議案第88号 鞍手町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例
(民生産業委員長報告)
- 日程第3 議案第90号 鞍手町営住宅管理条例の一部を改正する条例
(民生産業委員長報告)
- 日程第4 議案第92号 鞍手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例
(民生産業委員長報告)
- 日程第5 議案第95号 平成25年度鞍手町国民健康保険事業特別会計補正予算(第3号)
(民生産業委員長報告)
- 日程第6 議案第97号 平成25年度鞍手町かんがい施設維持管理運営費特別会計補正予算
(第1号) (民生産業委員長報告)
- 日程第7 議案第98号 平成25年度鞍手町泉水団地改良住宅移設事業特別会計補正予算(第2号)
(民生産業委員長報告)
- 日程第8 議案第89号 鞍手都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例
(総務文教委員長報告)
- 日程第9 議案第91号 社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律並びに社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例
(総務文教委員長報告)
- 日程第10 議案第93号 鞍手町課室設置条例等の一部を改正する条例
(総務文教委員長報告)
- 日程第11 議案第94号 平成25年度鞍手町一般会計補正予算(第5号)
(総務文教委員長報告)
- 日程第12 議案第96号 平成25年度鞍手町流域関連公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)
(総務文教委員長報告)
- 日程第13 議案第99号 平成25年度地方独立行政法人くらて病院貸付金特別会計補正予算
(第1号) (総務文教委員長報告)
- 日程第14 議案第100号 平成25年度鞍手町水道事業会計補正予算(第2号)
(総務文教委員長報告)

- 日程第15 議案第102号 平成25年度鞍手町中山西区用地造成事業特別会計補正予算（第2号）
（総務文教委員長報告）
- 日程第16 議案第103号 平成25年度鞍手町一般会計補正予算（第6号）
（総務文教委員長報告）
- 日程第17 議案第101号 財産の処分
（総務文教委員長報告）
- 日程第18 意見書第3号 容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための
法律の制定を求める意見書
- 日程第19 請願第1号 町道認定に関する請願
（民生産業委員長報告）
- 日程第20 閉会中の継続事件

平成 25 年 12 月 18 日（第 4 日）

開議 13 時 00 分

○議長 川野 高實君

これから本日の会議を開きます。

日程はお手元に配布のとおりです。

これより日程に入ります。

日程第 1 議案第 87 号から日程第 7 議案第 98 号までの 7 件を一括して議題とします。

本案は民生産業委員会に付託していましたので、民生産業委員長の審査報告を求めます。

栗田民生産業委員長。

○13 番 栗田 幸則君

民生産業委員会の議案審査報告をいたします。

議案第 87 号 鞍手町督促手数料及び延滞金徴収条例。

議案第 88 号 鞍手町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例。

議案第 90 号 鞍手町営住宅管理条例の一部を改正する条例。

議案第 92 号 鞍手町廃棄物処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例。

議案第 95 号 平成 25 年度鞍手町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 3 号）。

議案第 97 号 平成 25 年度鞍手町かんがい施設維持管理運営費特別会計補正予算（第 1 号）。

議案第 98 号 平成 25 年度鞍手町泉水団地改良住宅移設事業特別会計補正予算（第 2 号）。

本委員会は 12 月 11 日に付託された上記の議案を審査の結果、いずれも原案を可決すべきものと決定したので、会議規則第 76 条の規定により報告します。

○議長 川野 高實君

これから委員長報告に対する質疑を行います。

議案第 87 号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 88 号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 90 号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 92 号について質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 95 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 97 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 98 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

議案第 87 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 88 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 90 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 92 号について討論はありませんか。

宇田川亮君。

○11番 宇田川 亮君

議案第 92 号 鞍手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例に対し反対討論を行います。

この条例は、高すぎると批判の強いごみ袋料金を消費税が 8 % に増税されても、料金を据え置くものとなっています。このことは一定の評価はできますが、料金を据え置いたとしても、他の自治体と比べて高すぎることに変わりはありません。もっと思い切った値下げが必要だと考えます。

また、議案第 91 号と同じく、国に納める必要のない消費税をごみ袋料金等に転嫁し、町民からのみ消費税を徴収する条例には変わりありません。消費税が 10 % に増税されれば、その分ごみ袋料金が値上げされることにつながる、この条例には反対いたします。

○議長 川野 高實君

他に討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

これで討論を終わります。

次に、議案第 95 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 9 7 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 9 8 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから採決を行います。

議案第 8 7 号 鞍手町督促手数料及び延滞金徴収条例を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

(「挙手」あり)

挙手多数です。よって議案第 8 7 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 8 8 号 鞍手町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

(「挙手」あり)

挙手多数です。よって議案第 8 8 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 9 0 号 鞍手町営住宅管理条例の一部を改正する条例を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

(「挙手」あり)

挙手多数です。よって議案第 9 0 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 9 2 号 鞍手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

(「挙手」あり)

挙手多数です。よって議案第 9 2 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 9 5 号 平成 2 5 年度鞍手町国民健康保険事業特別会計補正予算 (第 3 号) を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

(「挙手」あり)

挙手多数です。よって議案第 9 5 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 97 号 平成 25 年度鞍手町かんがい施設維持管理運営費特別会計補正予算（第 1 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 97 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 98 号 平成 25 年度鞍手町泉水団地改良住宅移設事業特別会計補正予算（第 2 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 98 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に進みます。

日程第 8 議案第 89 号から日程第 17 議案第 101 号までの 10 件を一括して議題とします。

本案は総務文教委員会に付託していましたので、総務文教委員長の審査報告を求めます。

原総務文教委員長。

○ 6 番 原 哲也君

総務文教委員会の議案審査報告をいたします。

議案第 89 号 鞍手都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例。

議案第 91 号 社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律並びに社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例。

議案第 93 号 鞍手町課室設置条例等の一部を改正する条例。

議案第 94 号 平成 25 年度鞍手町一般会計補正予算（第 5 号）。

議案第 96 号 平成 25 年度鞍手町流域関連公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）。

議案第 99 号 平成 25 年度地方独立行政法人くらて病院貸付金特別会計補正予算（第 1 号）。

議案第 100 号 平成 25 年度鞍手町水道事業会計補正予算（第 2 号）。

議案第 102 号 平成 25 年度鞍手町中山西区用地造成事業特別会計補正予算（第 2 号）。

議案第 103 号 平成 25 年度鞍手町一般会計補正予算（第 6 号）。

議案第 101 号 財産の処分。

本委員会は 12 月 11 日に付託された上記の議案を審査の結果、いずれも原案を可決すべきものと決定したので、会議規則第 76 条の規定により報告いたします。

○ 議長 川野 高實君

これから委員長報告に対する質疑を行います。

議案第 89 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 91 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 93 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 94 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 96 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 99 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 100 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 102 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 103 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

次に、議案第 101 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

議案第 89 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 91 号について討論はありませんか。

宇田川亮君。

○ 1 1 番 宇田川 亮君

議案第 9 1 号に対し反対討論を行います。

今回の条例は、消費税が来年 4 月から 8 %へ増税されることに伴い、町内公共施設の使用料や入館料も値上げするというものです。しかも、消費税が 1 0 %に上がれば、条例改正せずに値上げされることも明らかになっています。

更に町は、民間企業との公平性を保つためなどと言っていますが、民間企業は国に消費税を納めています。しかしながら町は、町民や利用者からは消費税を取っておきながら、国には 1 円も納めていないことも明らかになりました。

これでは公平性どころか、まさに不公平としか言いようがありません。国に納める必要のない消費税は社会保障の安定財源の確保にはつながりません。そして、それを公共料金にも転嫁し、町民や利用者からのみ消費税を徴収するこの条例には反対いたします。

○議長 川野 高實君

他に討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

これで討論を終わります。

次に、議案第 9 3 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 9 4 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 9 6 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 9 9 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 1 0 0 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 1 0 2 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第 1 0 3 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

次に、議案第１０１号について討論はありませんか。

岡崎邦博君。

○１２番 岡崎 邦博君

議案第１０１号 財産の処分について反対の立場から討論を行います。

この議案は中山西区用地のＡ用地を鑑定評価額である公募価格から４０％割引にあたる、１㎡あたり９，６００円から５，７６０円に単価を引き下げ、３，２１５万円分を値引きして処分しようとするものです。

公有財産の処分は、本来、適正な対価での処分が求めているが、今回の財産処分は鑑定評価額である公募価格から４０％割引く根拠が軟弱地盤だからという理由だけで、それがなぜ４０％引きにあたるのか数的根拠が全く示されていません。さらに割引価格は広く一般に公表されることなく、町と相手方との二者で４０％引きの価格が決定されており、公有財産の処分に必要な公平性、公正性、透明性も確保されていません。

これらのことから、適正を欠いた町有地の処分であると言わざるを得ず、町民の財産を減耗することにつながるため、議案第１０１号に反対します。

○議長 川野 高實君

他に討論はありませんか。

（「なし」の声あり）

これで討論を終わります。

これから採決を行います。

議案第８９号 鞍手都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第８９号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第９１号 社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税法の一部を改正する等の法律並びに社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための地方税法及び地方交付税法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第９１号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第９３号 鞍手町課室設置条例等の一部を改正する条例を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 9 3 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 9 4 号 平成 2 5 年度鞍手町一般会計補正予算（第 5 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 9 4 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 9 6 号 平成 2 5 年度鞍手町流域関連公共下水道事業特別会計補正予算（第 3 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 9 6 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 9 9 号 平成 2 5 年度地方独立行政法人くらて病院貸付金特別会計補正予算（第 1 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 9 9 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 1 0 0 号 平成 2 5 年度鞍手町水道事業会計補正予算（第 2 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 1 0 0 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 1 0 2 号 平成 2 5 年度鞍手町中山西区用地造成事業特別会計補正予算（第 2 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第 1 0 2 号は委員長報告のとおり可決されました。

次に、議案第 1 0 3 号 平成 2 5 年度鞍手町一般会計補正予算（第 6 号）を採決します。

本案に対する委員長の報告は可決であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第１０３号は委員長報告のとおり可決されました。
次に、議案第１０１号 財産の処分を採決します。
本案に対する委員長の報告は可決であります。
本案は、委員長報告のとおり決定することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって議案第１０１号は委員長報告のとおり可決されました。
次に進みます。

日程第１８ 意見書第３号を議題とします。
提出者を代表して６番議員 原哲也君に趣旨説明をお願いします。
原哲也君。

○６番 原 哲也君

意見書第３号を提案いたします。
意見書第３号 容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書。
別紙意見書案を提出する。
平成２５年１２月１８日提出。
提出者 鞍手町議会議員 原哲也。同じく栗田幸則。
提案理由

地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第９９条並びに鞍手町議会会議規則（昭和６２年鞍手町議会規則第１号）第１３条第１項及び第２項の規定により提案する。

○議長 川野 高實君

お諮りします。
意見書第３号は質疑討論を省略して、直ちに採決に入りたいと思います。
これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

ご異議なしと認めます。よって意見書第３号は質疑討論を省略します。
これから採決を行います。
意見書第３号 容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書を採決します。
本案を原案のとおり可決することに賛成の方は挙手をお願いします。

（「挙手」あり）

挙手多数です。よって意見書第３号は原案のとおり可決されました。
次に進みます。
日程第１９ 請願第１号を議題とします。
本請願は民生産業委員会に付託していましたので、民生産業委員長の審査報告を求めます。
栗田民生産業委員長。

○ 1 3 番 栗田 幸則君

民生産業委員会の請願審査報告をいたします。

請願第 1 号 町道認定に関する請願。

本委員会は、1 2 月 4 日に付託された上記の請願を審査の結果、採択とし、町長に送付すべきものと決定したので、会議規則第 9 3 条の規定により報告します。

○議長 川野 高實君

これから委員長報告に対する質疑を行います。

請願第 1 号について質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

請願第 1 号について討論はありませんか。

(「なし」の声あり)

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから採決を行います。

請願第 1 号 町道認定に関する請願を採決します。

本案に対する委員長の報告は採択であります。

本案は、委員長報告のとおり決定することに、賛成の方は挙手をお願いします。

(「挙手」あり)

挙手多数です。よって請願第 1 号は委員長報告のとおり採択されました。

次に進みます。

日程第 2 0 閉会中の継続事件を議題とします。

各委員長から目下審査する事件について、会議規則第 7 4 条の規定に基づき、お手元に配布しましたとおり、閉会中の継続審査の申し出がっております。

これより継続審査の申し出に対する質疑をお受けします。

質疑はありませんか。

(「なし」の声あり)

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

お諮りします。

各委員長の申し出のとおり継続審査することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

ご異議なしと認めます。よって各委員長から申し出のとおり継続審査することに決定しました。

これで本日の日程は全部終了しました。

これをもって、平成 2 5 年第 9 回定例会を閉会します。

閉会 1 3 時 3 2 分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

議長 川 野 高 實

議員 田 中 二 三 輝

議員 原 哲 也

平成25年12月18日

鞍手町議会

議長 川 野 高 實

閉会中の継続事件について

下記事件について、各委員長から鞍手町議会会議規則第74条の規定に基づき、閉会中の継続審査及び調査の申し出があったので、これを閉会中の継続事件とすることにつき議会の議決を求める。

委 員 会 名	調 査 事 項
総務文教委員会	財政、人事、給与、消防、都市計画、教育、上下水道及び民生産業委員会に属さない事項の所管事務調査
民生産業委員会	厚生、福祉、保健衛生、国民健康保険、産業、労働、土木、建設、地方独立行政法人に関する事項の所管事務調査
	陳情第3号「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書」の採択に関する陳情
議会運営委員会	本会議の会期日程等議会運営に関する事項、議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項、全員協議会の開催に関する事項及び議長の諮問に関する事項
議会広報編集調査 特別委員会	議会広報編集及び調査